

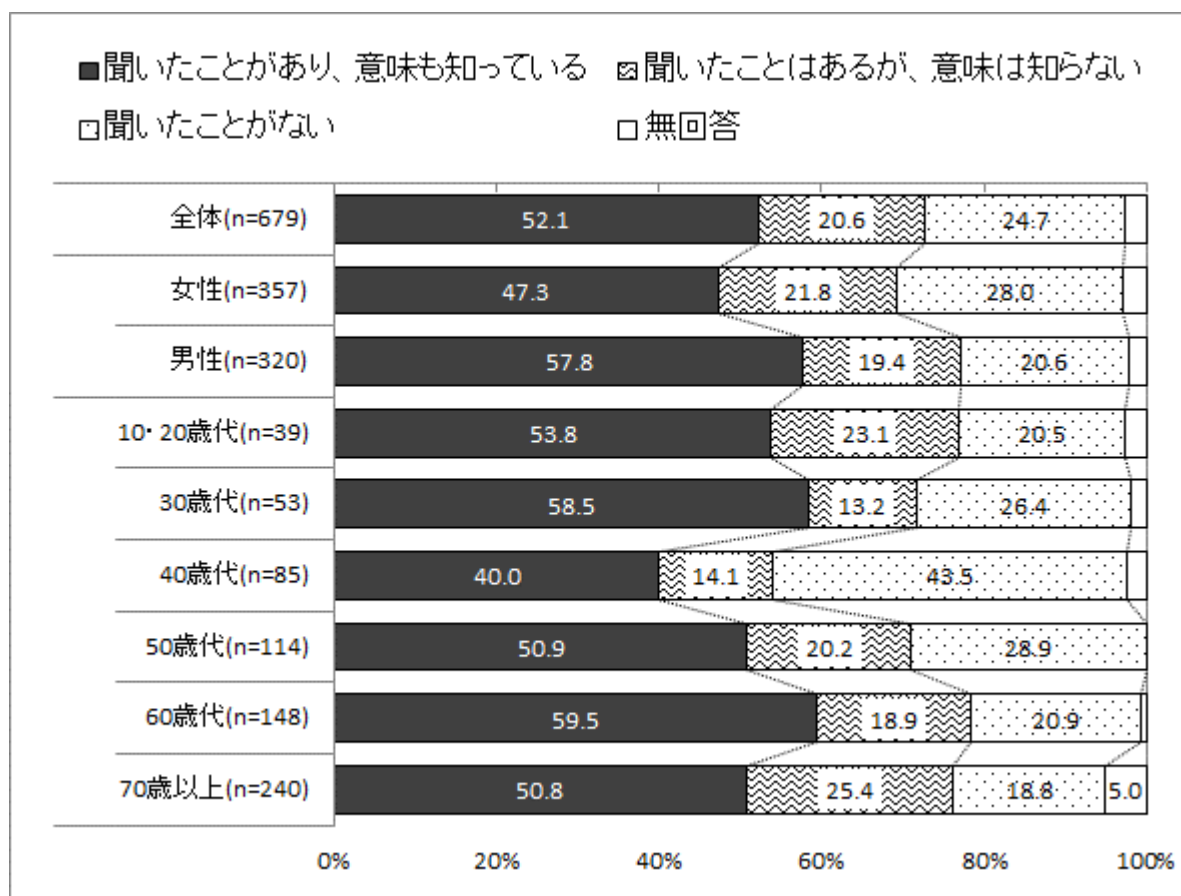
□ 男女共同参画社会の形成について

問21 「男女共同参画社会」という言葉の認知度について（令和3年新規調査項目）

「男女共同参画社会」という言葉を聞いたことがありますか。当てはまる番号を記入してください。

⇒「男女共同参画社会」という言葉の意味を知っている方は、全体の約52%

「男女共同参画社会」という言葉の認知度について（全体・性別・年代別） 単位（%）



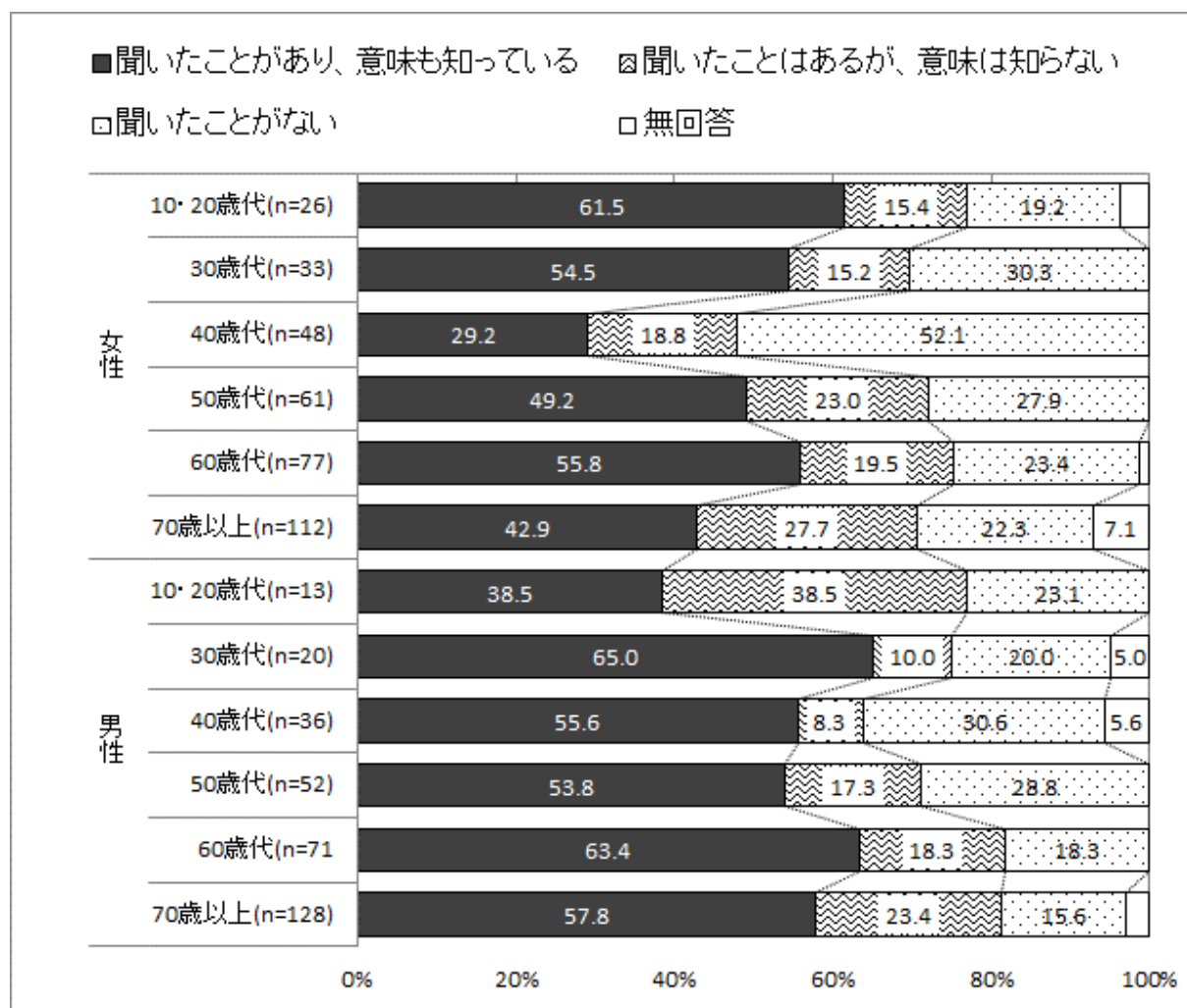
「男女共同参画」という言葉の意味について聞いたところ、全体では、「聞いたことがあります、意味も知っている」の割合が52.1%、「聞いたことがない」が24.7%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が20.6%となっている。

性別で見ると、「聞いたことがあります、意味も知っている」の割合は、男性の方が高くなっている。

年代別で見ると「聞いたことがあります、意味も知っている」の割合は10・20歳代、30歳代、50歳代以上で50%を超える認知度であったが、各年代で「聞いたことがない」「聞いたことはあるが、意味は知らない」の割合も高い傾向となっている。

「男女共同参画社会」という言葉の認知度について（性×年代別）

単位（％）



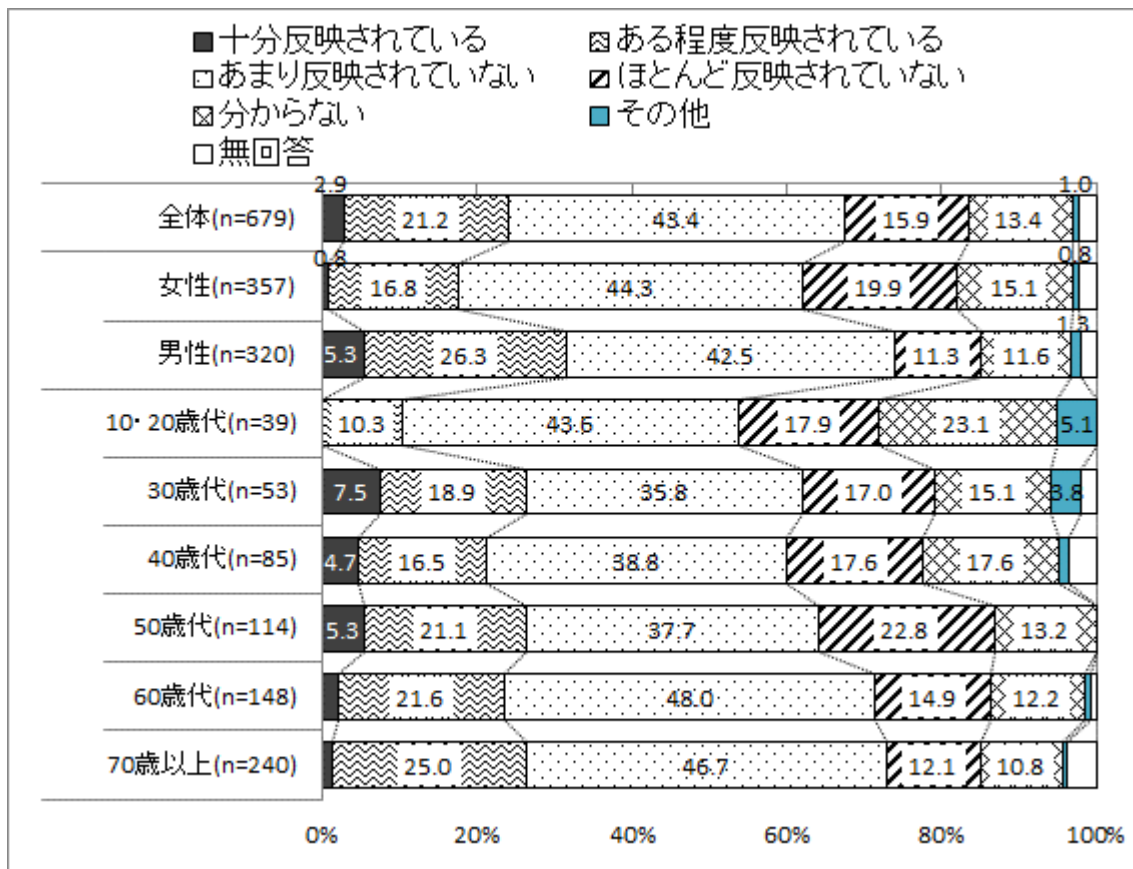
性×年代別で見ると、「聞いたことがあり、意味も知っている」の割合は、女性の10・20歳代及び男性の30歳代と60歳代で60%を超えるなど50%を超える年代が多くなっているが、「聞いたことがない」「聞いたことはあるが、意味は知らない」の割合についても、女性の40歳代で70.9%、男性10・20歳代で61.6%など多くの年代で高い傾向となっている。

問22 政治や行政での女性意見の反映について

女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。当てはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

⇒ 女性の意見が政治や行政に「反映されていない」が、約59%

政治や行政での女性意見の反映について（全体・性別・年代別） 単位（%）



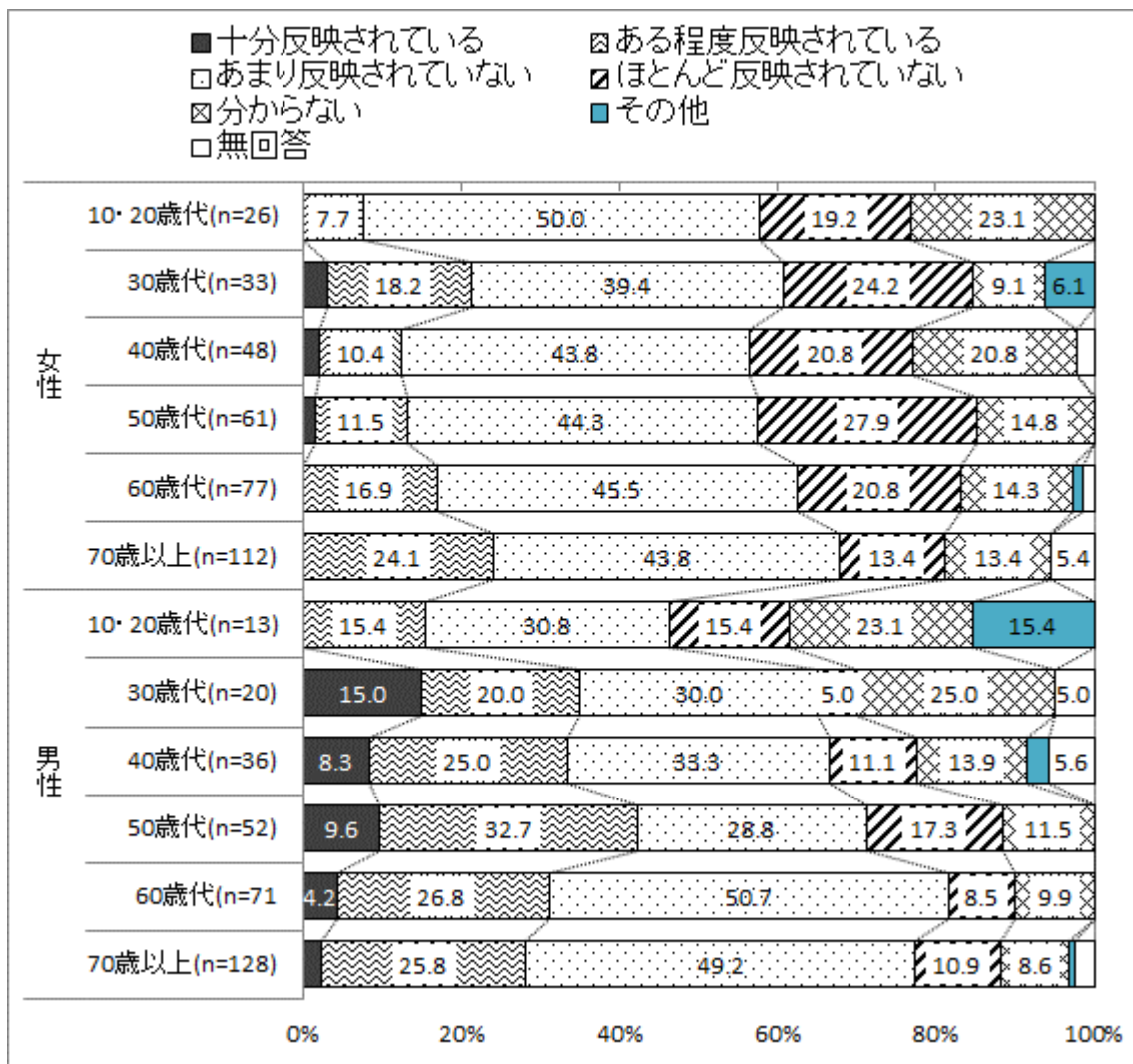
政治や行政での女性意見の反映について聞いたところ、全体では、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」の割合は59.3%で、「十分に反映されている」「ある程度反映されている」は24.1%となっている。

性別で見ると、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」の割合は、女性が64.2%で男性が53.8%、「十分に反映されている」「ある程度反映されている」は、女性が17.6%で男性が31.6%となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」の割合が50%を超えて高くなっている。

政治や行政での女性意見の反映について（性×年代別）

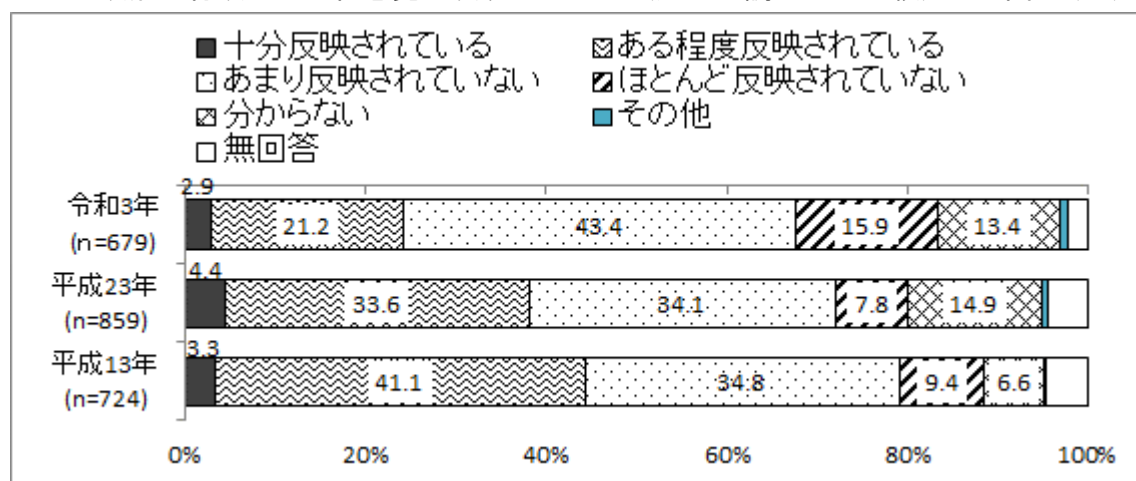
単位（％）



性×年代別で見ると、女性では、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」の割合は、50歳代で70%を超えるなど全ての年代で高くなっている。

男性においても、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」の割合は、全ての年代で「十分反映されている」「ある程度反映されている」の割合を上回っているが、女性に比べ両者の割合の差は小さくなっている。

政治や行政での女性意見の反映について（過去の調査との比較） 単位（％）

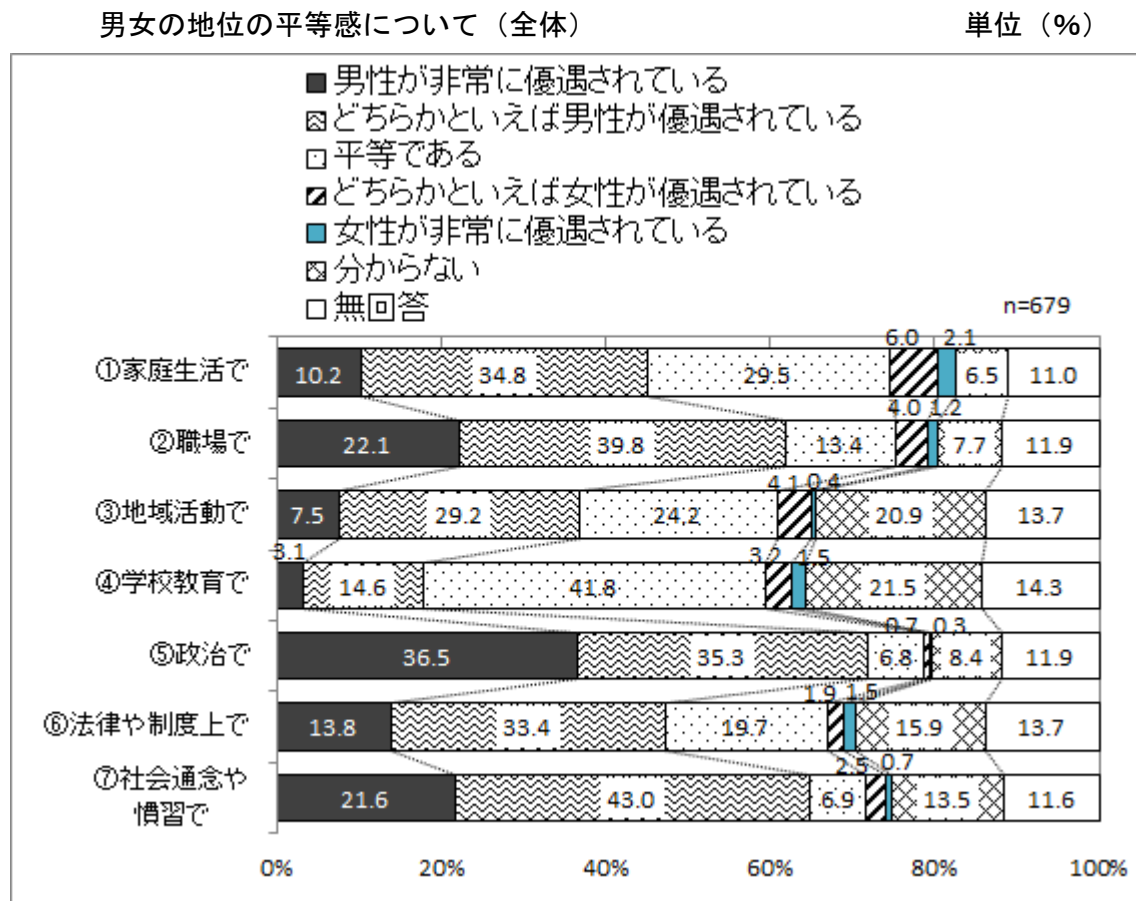


過去の調査と比較すると、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計の割合は減少傾向、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」は増加傾向となっている。

問23 男女の地位の平等感について

あなたは、現状において次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。下の選択肢から1つを選んで番号を記入してください。

⇒ 男女の平等感が高いのは「学校教育」のみ、男性優遇は「政治」「社会通念や慣習」「職場」が上位。

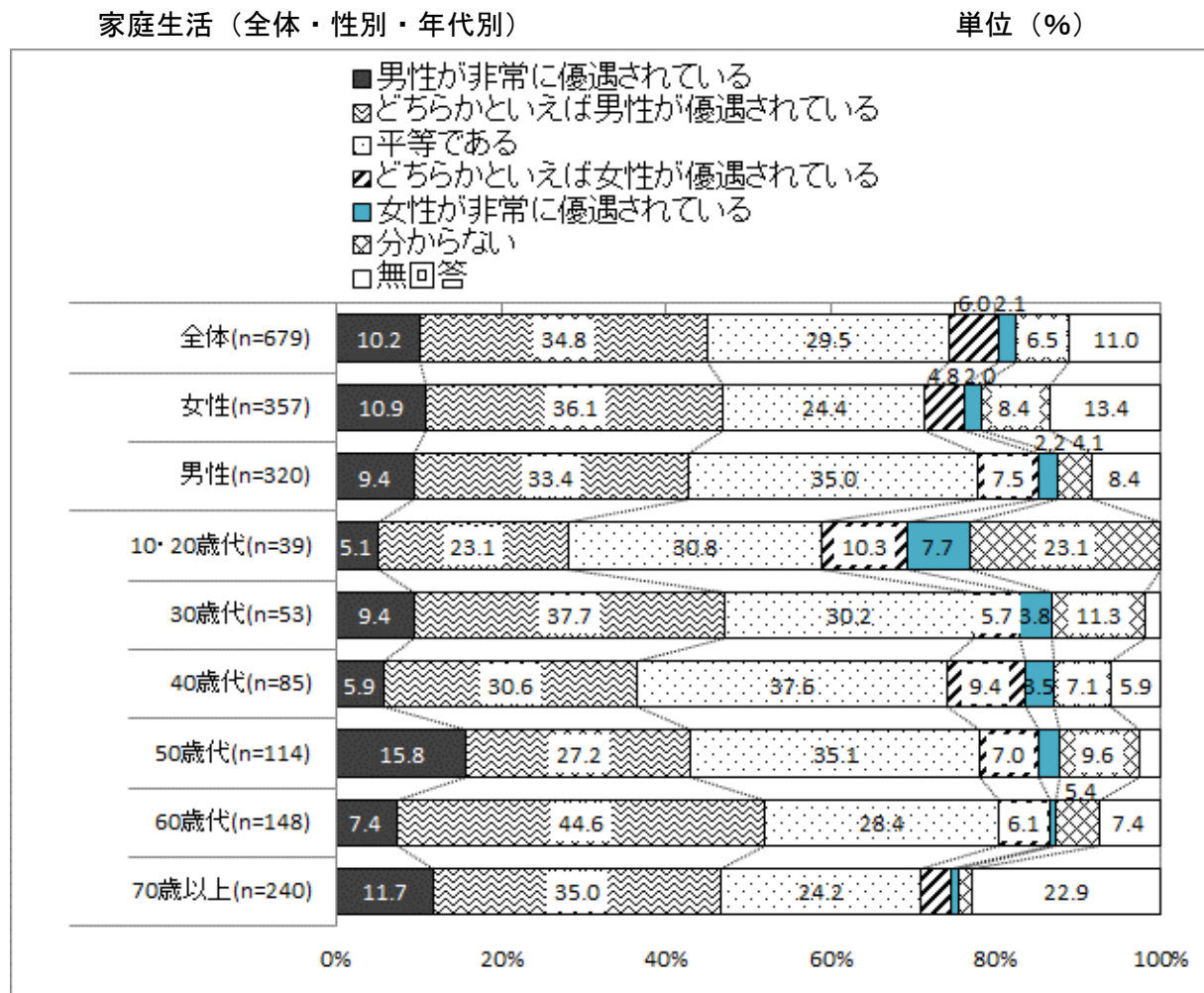


上記7分野における男女の地位の平等感について聞いたところ「平等である」の割合が最も高かったのは「学校教育」で41.8%となっている。

残りの分野は、全て「男性の方が優遇」（「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合が高くなっており、特に「政治」「社会通念や慣習」「職場」の3分野においては、60%を超える割合となっている。

① 家庭生活で

⇒ 「男性の方が優遇」が45%、「平等」が約30%



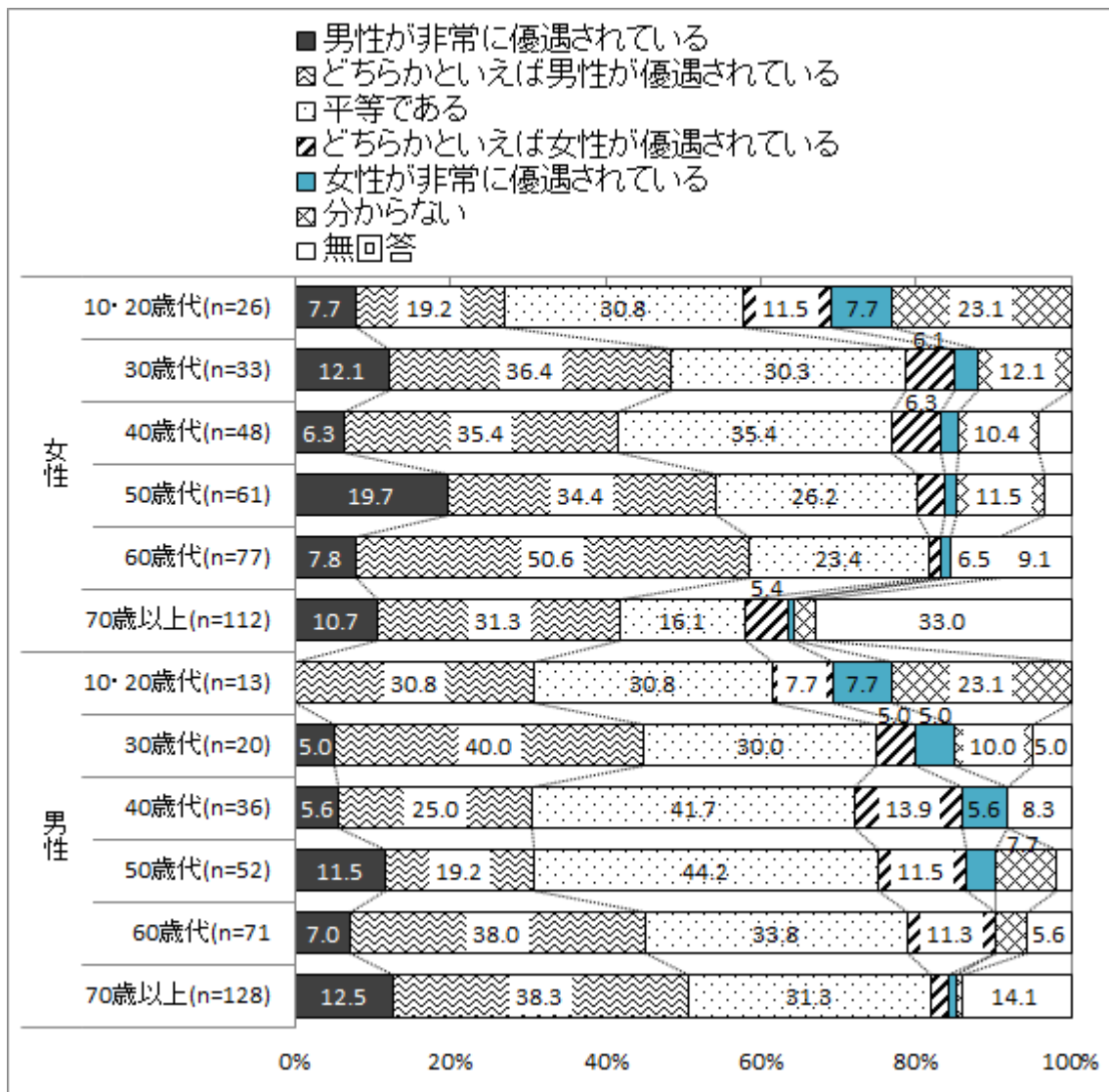
家庭生活における平等感について聞いたところ、全体では、「男性の方が優遇」の割合が45.0%と最も高く、「平等である」が29.5%、「女性の方が優遇」（「女性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）が8.1%となっている。

性別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は女性の方が高く、「平等である」は男性の方が高くなっている。

年代別で見ると、「平等である」の割合は、40歳代で最も高くなっているが、その他の年代では「男性の方が優遇」の割合が高くなっている。

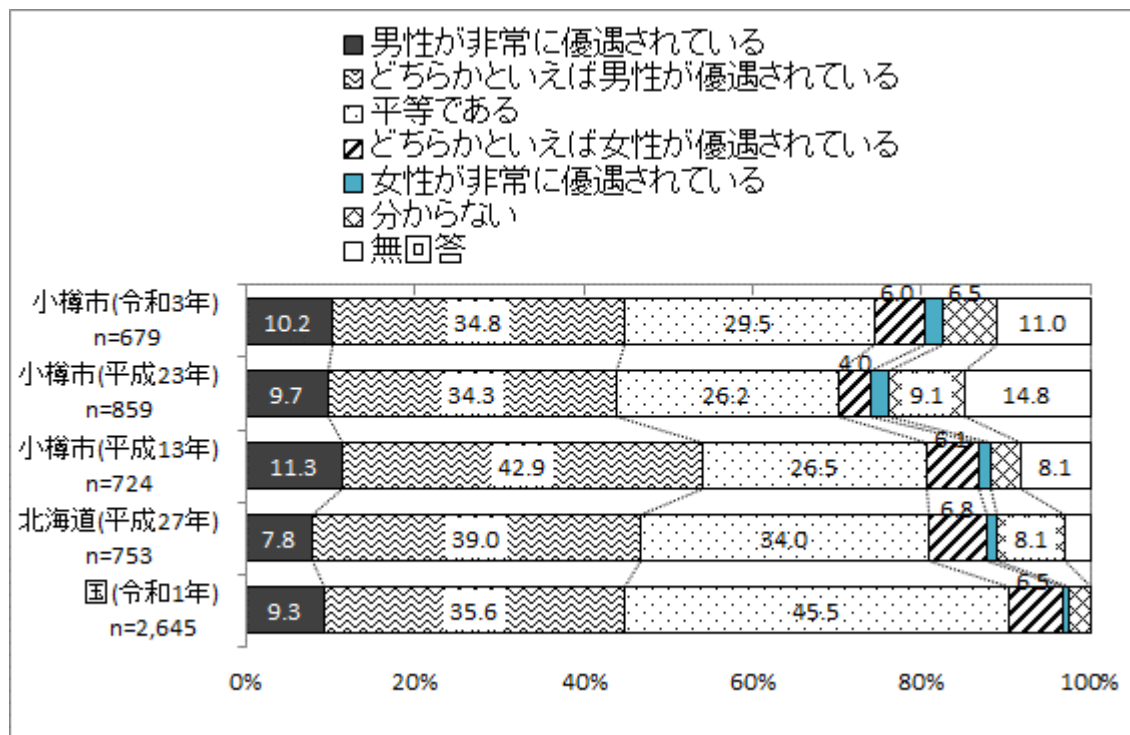
家庭生活（性×年代別）

単位（％）



性×年代別で見ると、女性では、10・20歳代で「平等である」の割合が最も高くなっているが、その他の年代では「男性の方が優遇」の割合が高くなっている。

男性では、40歳代と50歳代で「平等である」の割合が最も高くなっているが、その他の年代では「男性の方が優遇」の割合が高くなっている。

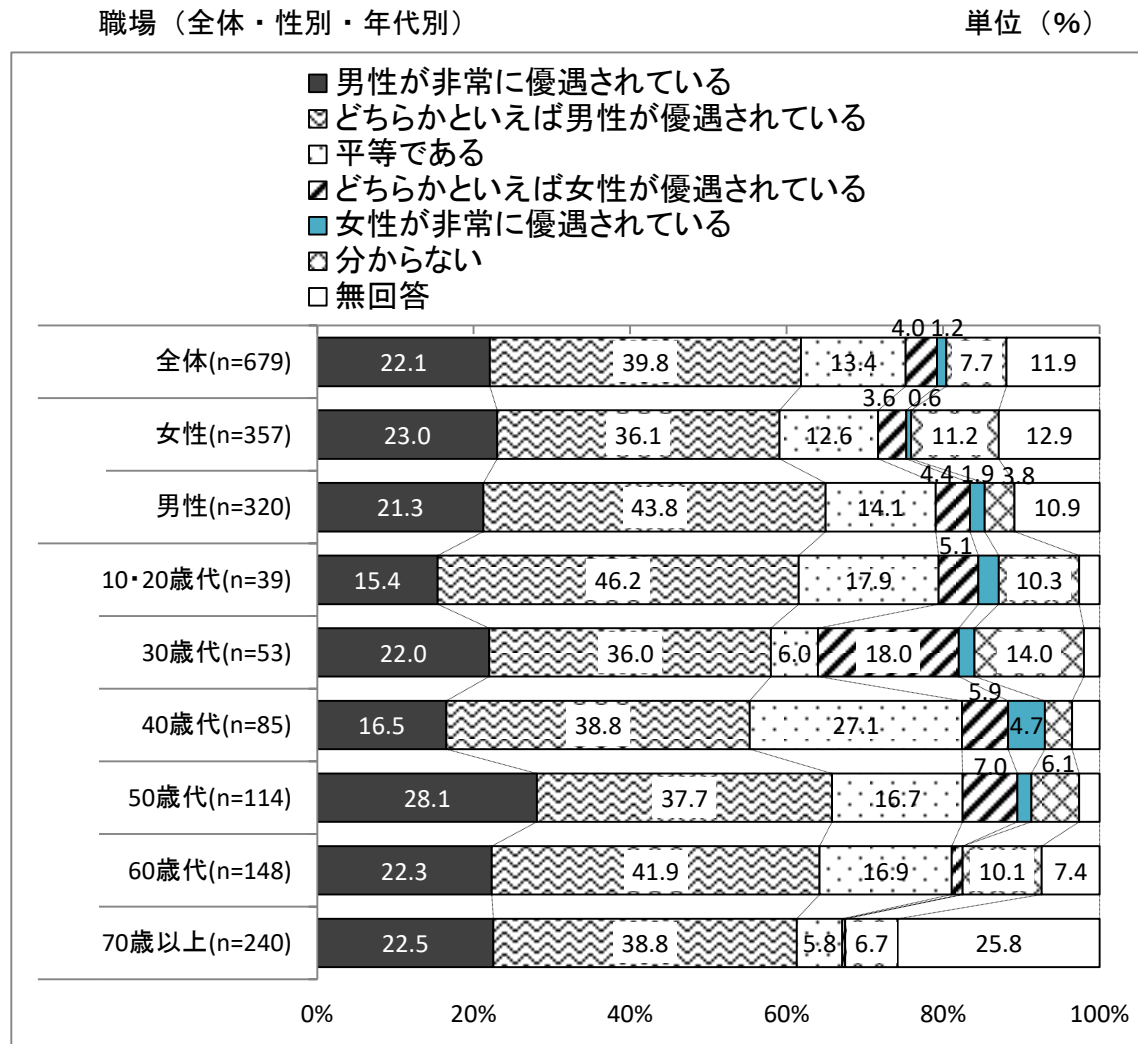


小樽市の平成13年調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合は減少しているが、23年調査と比較すると大きな変化は見られない。「平等である」の割合は、各調査で大きな変化は見られない。

北海道、国の調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合は小樽市と同程度、「平等である」の割合については小樽市の方が低くなっている。

② 職場で

⇒「男性の方が優遇」が約62%、「平等」が約13%



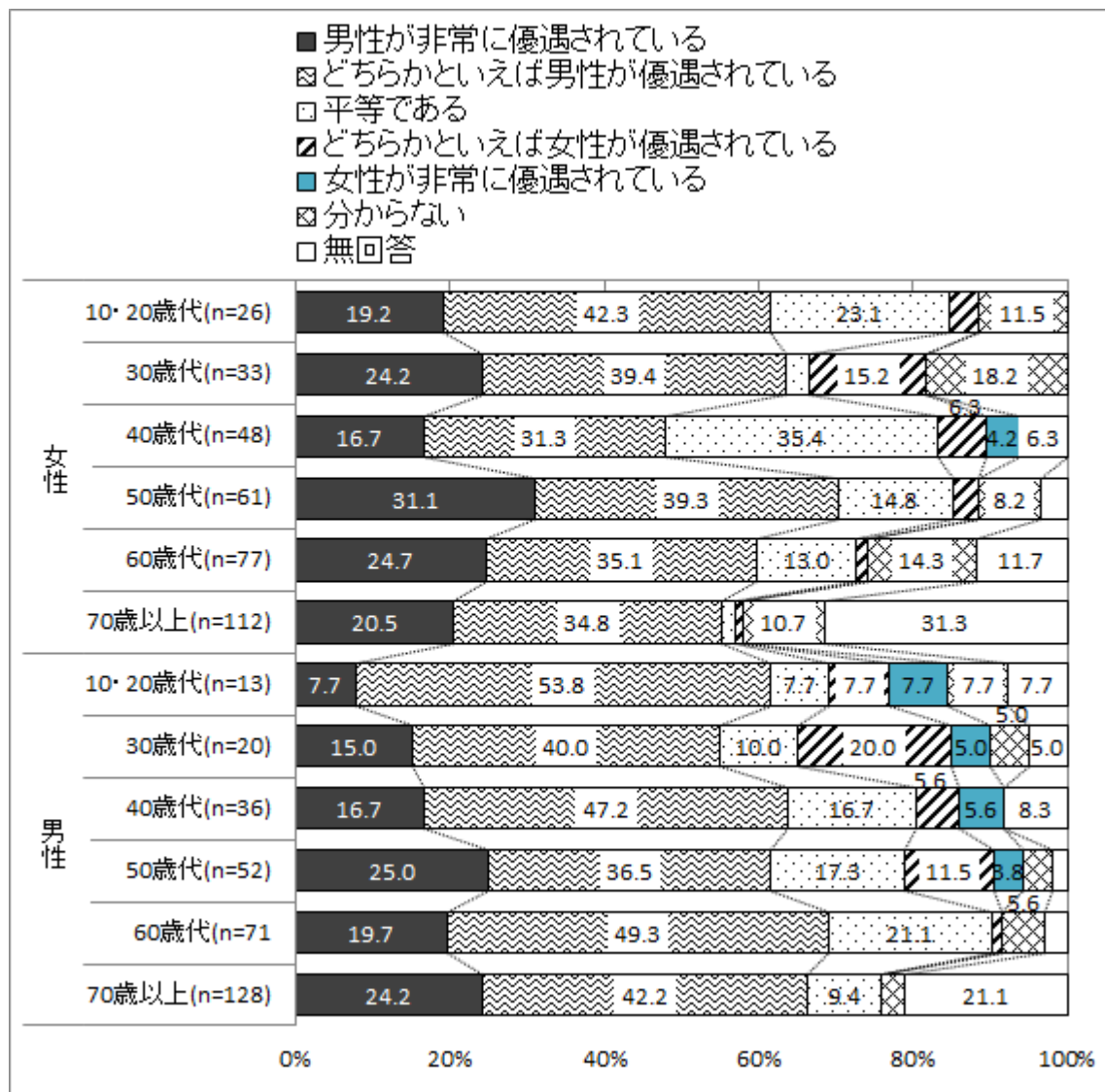
職場における平等感について聞いたところ、全体では、「男性の方が優遇」の割合が61.9%と最も高く、「平等である」が13.4%、「女性の方が優遇」が5.2%となっている。

性別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、男性の方が高くなっている。

年代別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、全ての年代で高くなっている。

職場（性×年代別）

単位（％）

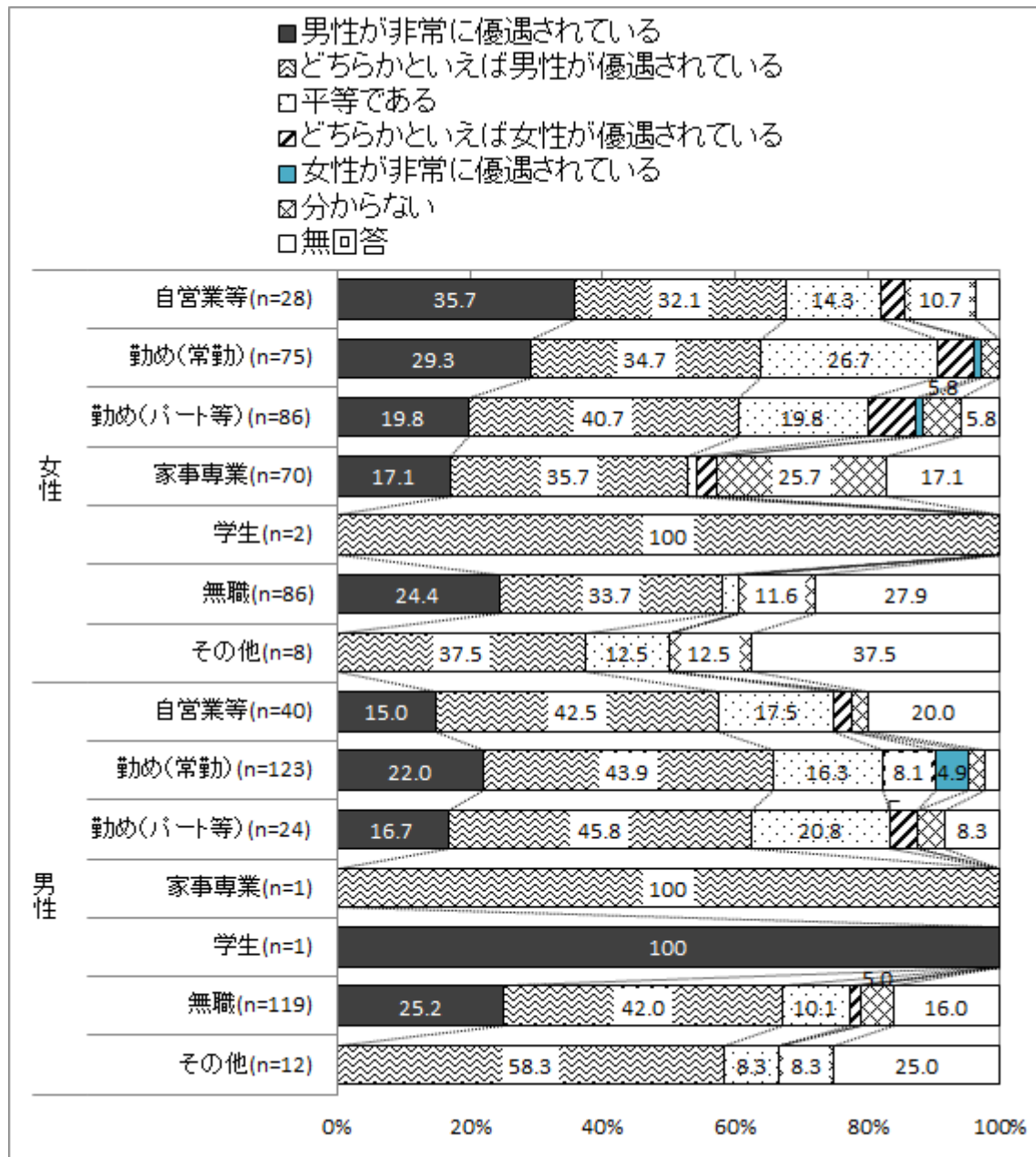


性×年代別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、女性・男性の全ての年代で高くなっている。

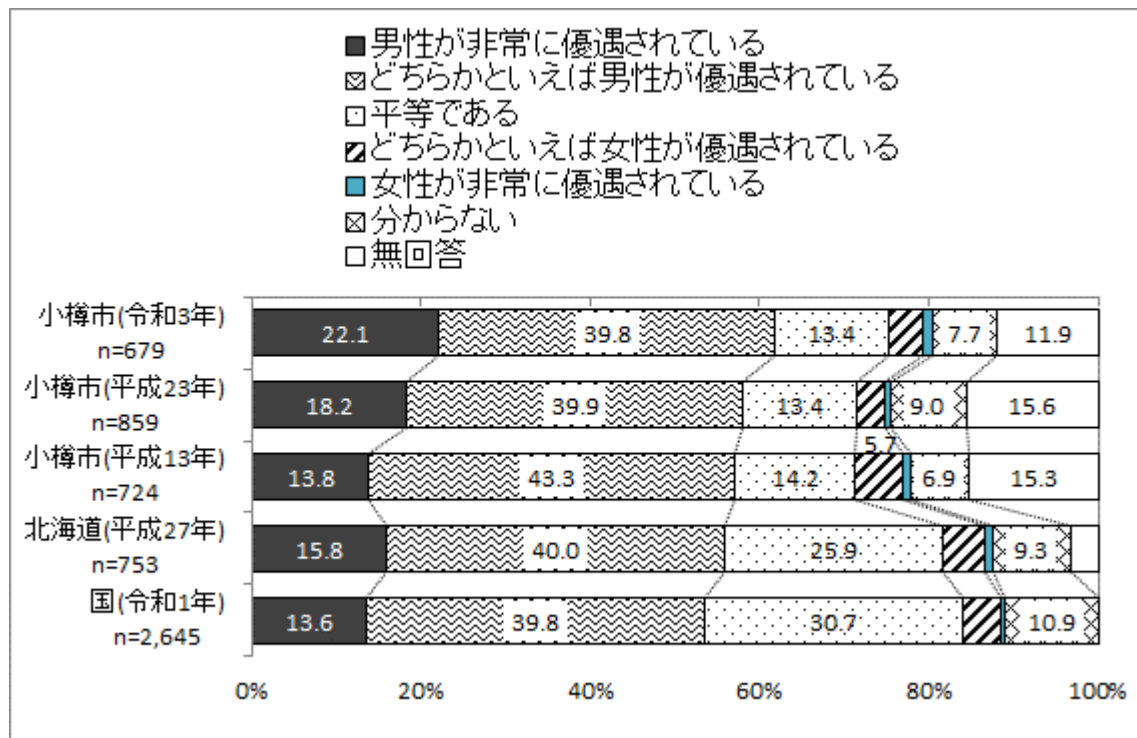
「平等である」は、女性40歳代の35.4%、男性60歳代の21.1%が最も高い割合となっている。

職場（性×職業別）

単位（％）



性×職業別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、女性では、自営業等、勤め（常勤）、勤め（臨時等）、学生で高く、男性では、勤め（常勤）、勤め（臨時等）、無職等で高くなっている。

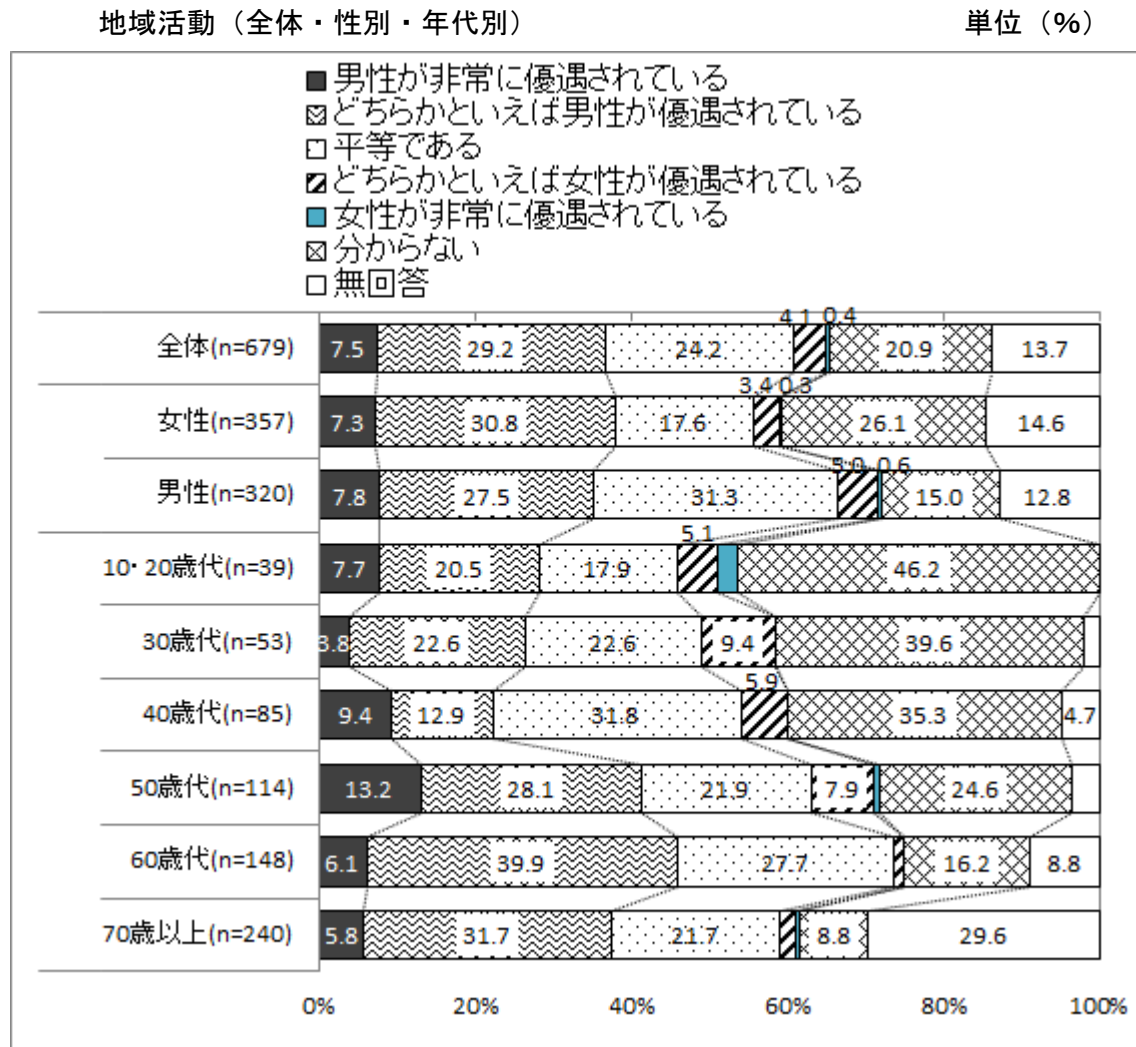


小樽市の過去の調査と比較すると、「男性が非常に優遇されている」の割合が増加している。「平等である」の割合については、過去の調査と大きな変化は見られない。

北海道、国の調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合は、小樽市の方が高く、「平等である」の割合については、小樽市の方が低くなっている。

③ 地域活動で

⇒ 「男性の方が優遇」が約37%、「平等」が約24%



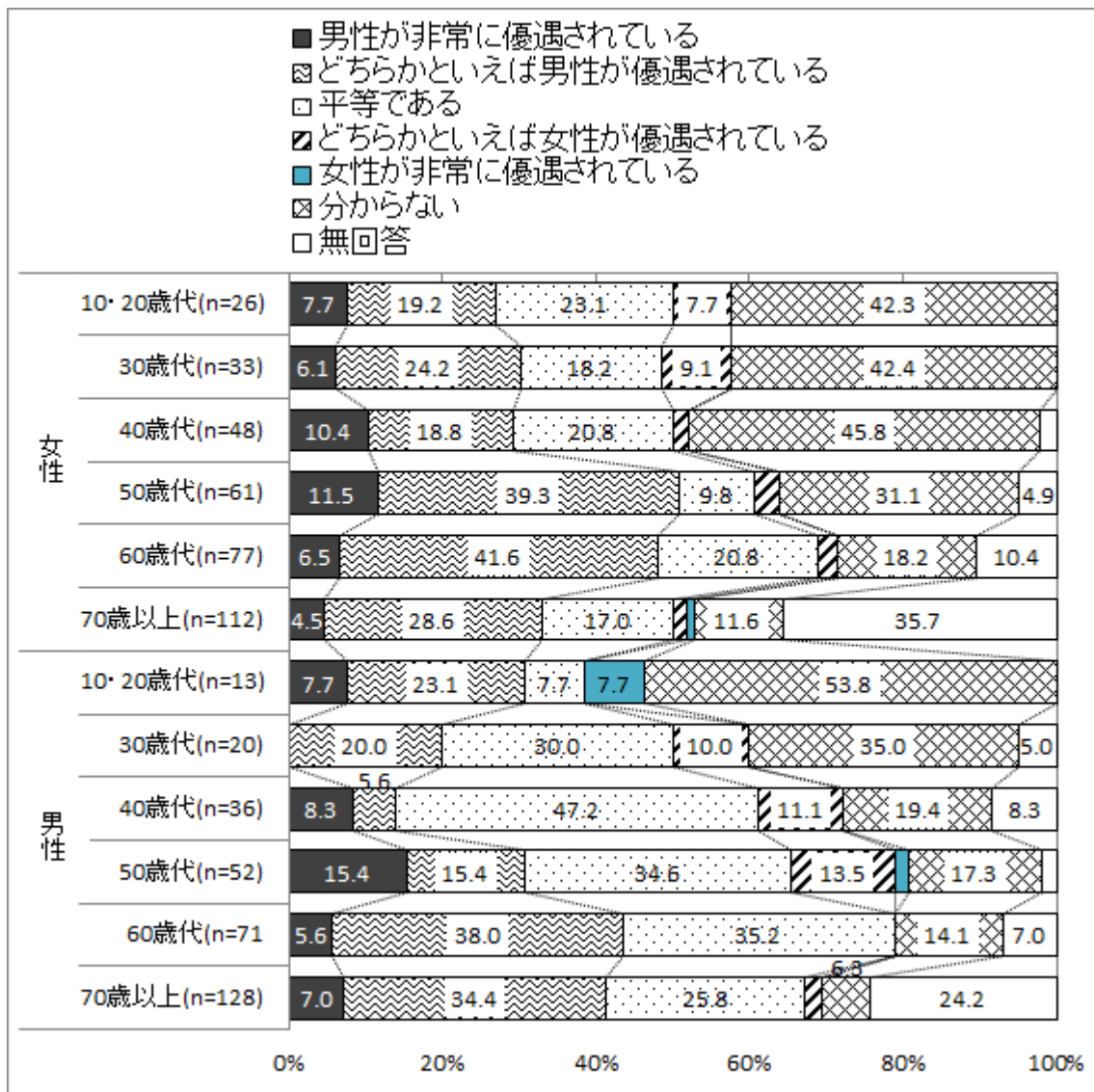
地域活動における平等感について聞いたところ、全体では、「男性の方が優遇」の割合が36.7%と最も高く、「平等である」の24.2%を上回っている。「女性の方が優遇」が4.5%となっている

性別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は女性の方が、「平等である」の割合は、男性の方が高くなっている。

年代別で見ると、「平等である」の割合は、40歳代で高くなっているが、他の年代では「男性の方が優遇」の割合が高くなっている。

地域活動（性×年代別）

単位（％）

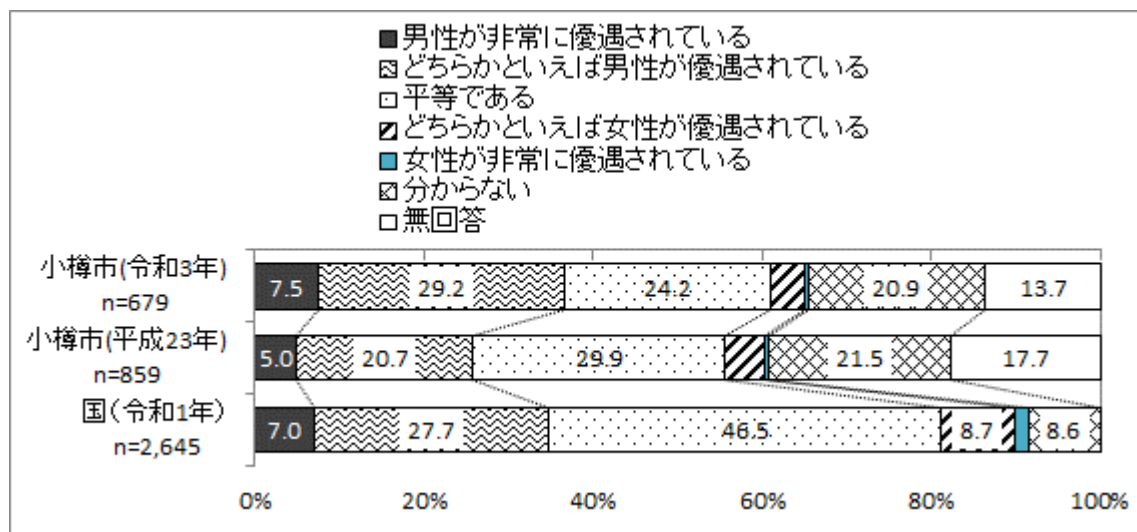


性×年代別で見ると、女性では、「男性の方が優遇」の割合が、全ての年代で最も高くなっている。

男性では、30歳代～50歳代で「平等である」の割合が高く、他の年代では「男性の方が優遇」の割合が高くなっている。

地域活動（過去の調査との比較）

単位（％）

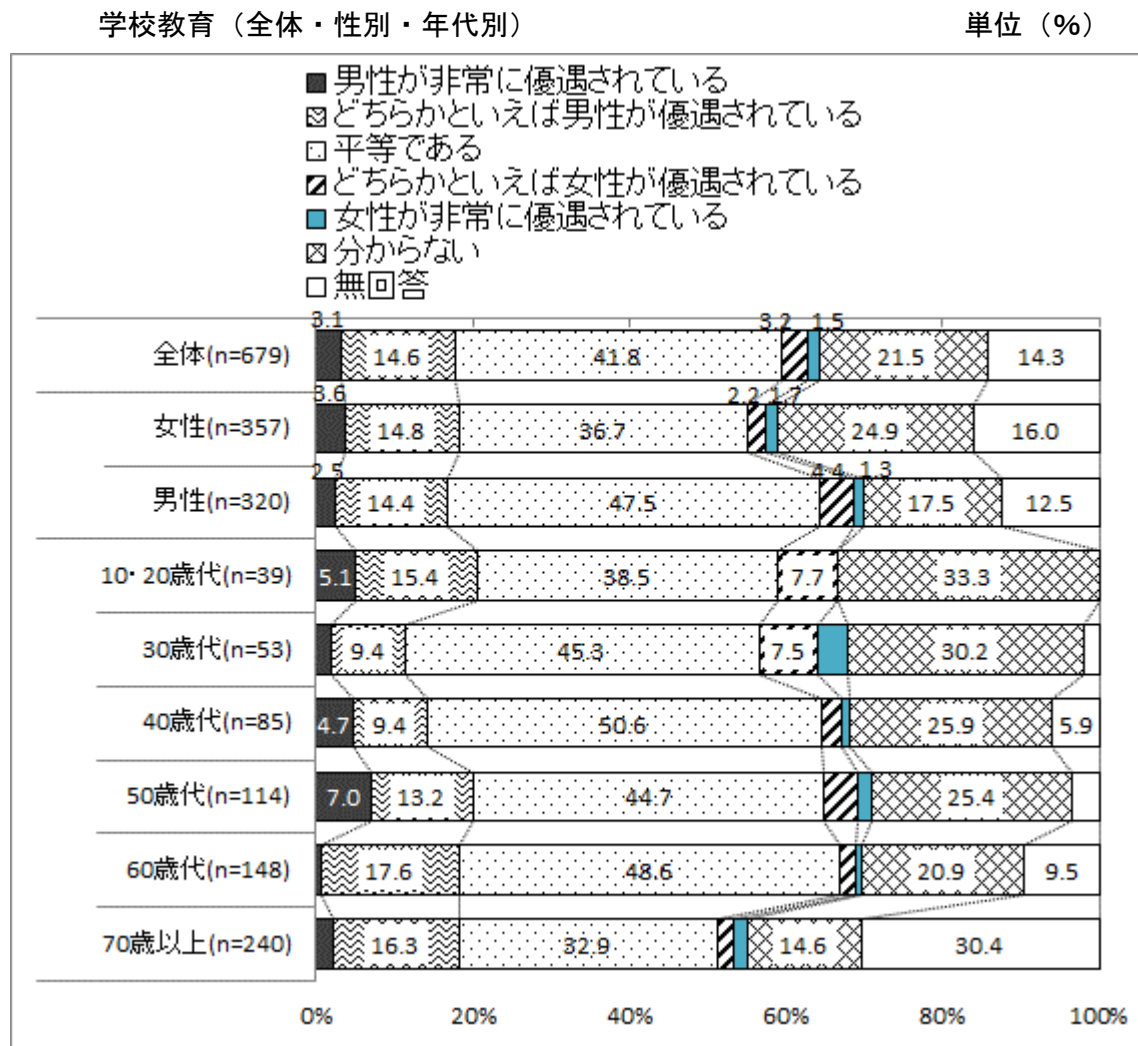


小樽市の前回調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合が増加し、「平等である」の割合が減少している。

国の調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合は同程度であるが、「平等である」の割合は、小樽市の方が低くなっている。

④ 学校教育で

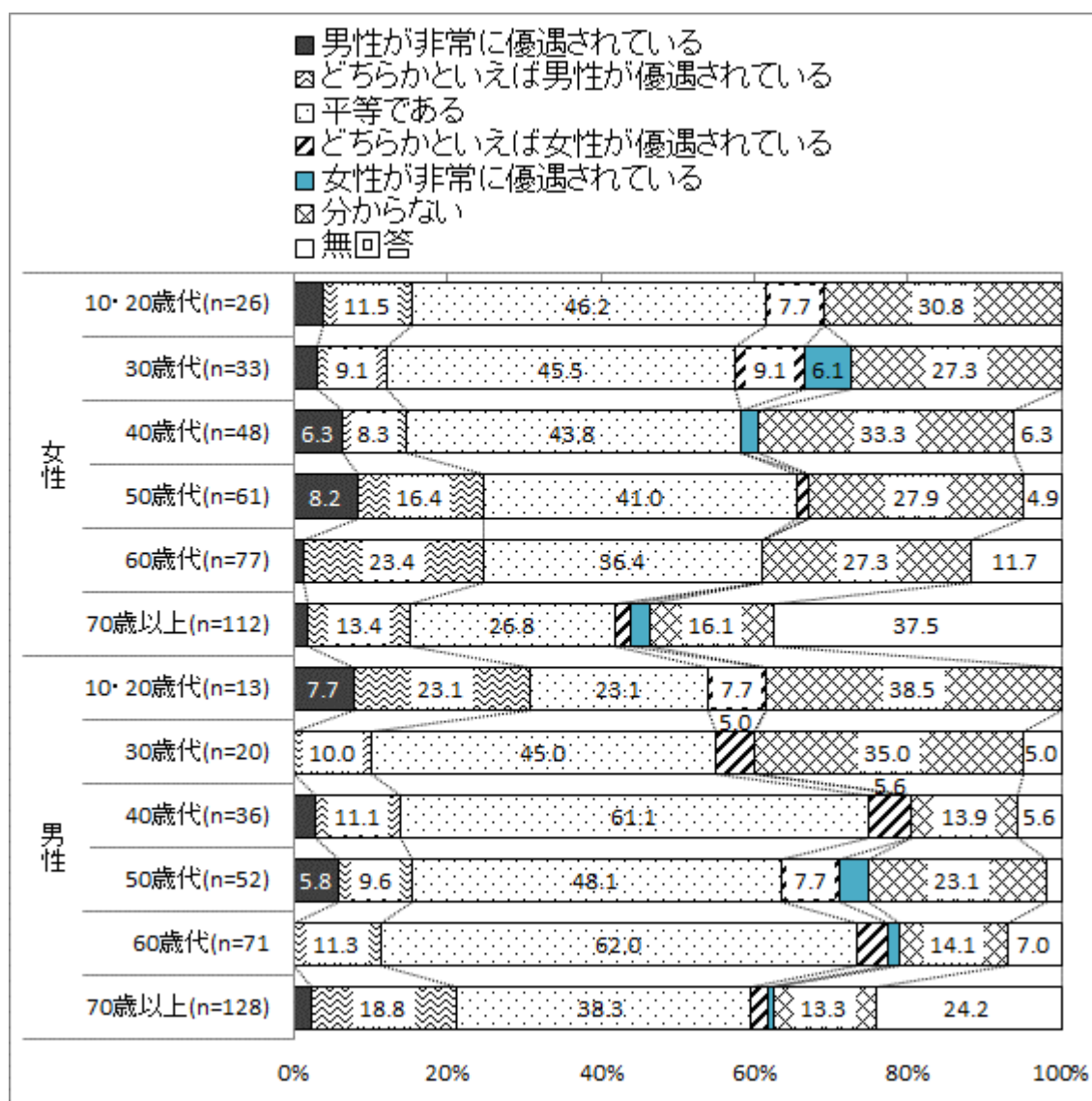
⇒ 「平等」が約42%、「男性の方が優遇」が約18%



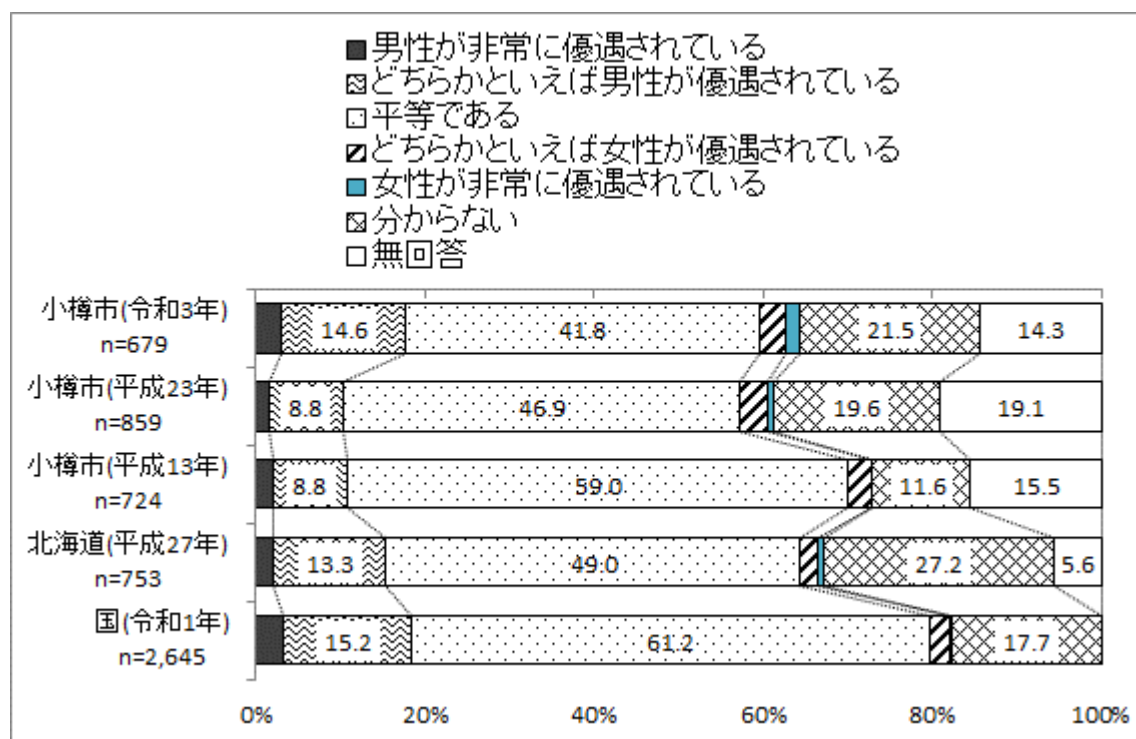
学校教育における平等感について聞いたところ、全体では、「平等である」の割合が41.8%と最も高く、「男性の方が優遇」が17.7%、「女性の方が優遇」が4.7%となっている。

性別で見ると、女性・男性とも「平等である」の割合が最も高いが、男性の方が女性よりも高い割合となっている。

年代別で見ると、「平等である」の割合は全ての年代で最も高くなっており、40歳代では50.6%となっている。



性×年代別で見ると、男性の10・20歳代では「男性の方が優遇」の割合が30.8%で最も高くなっているが、その他の年代では女性・男性とも「平等である」の割合が最も高くなっている。

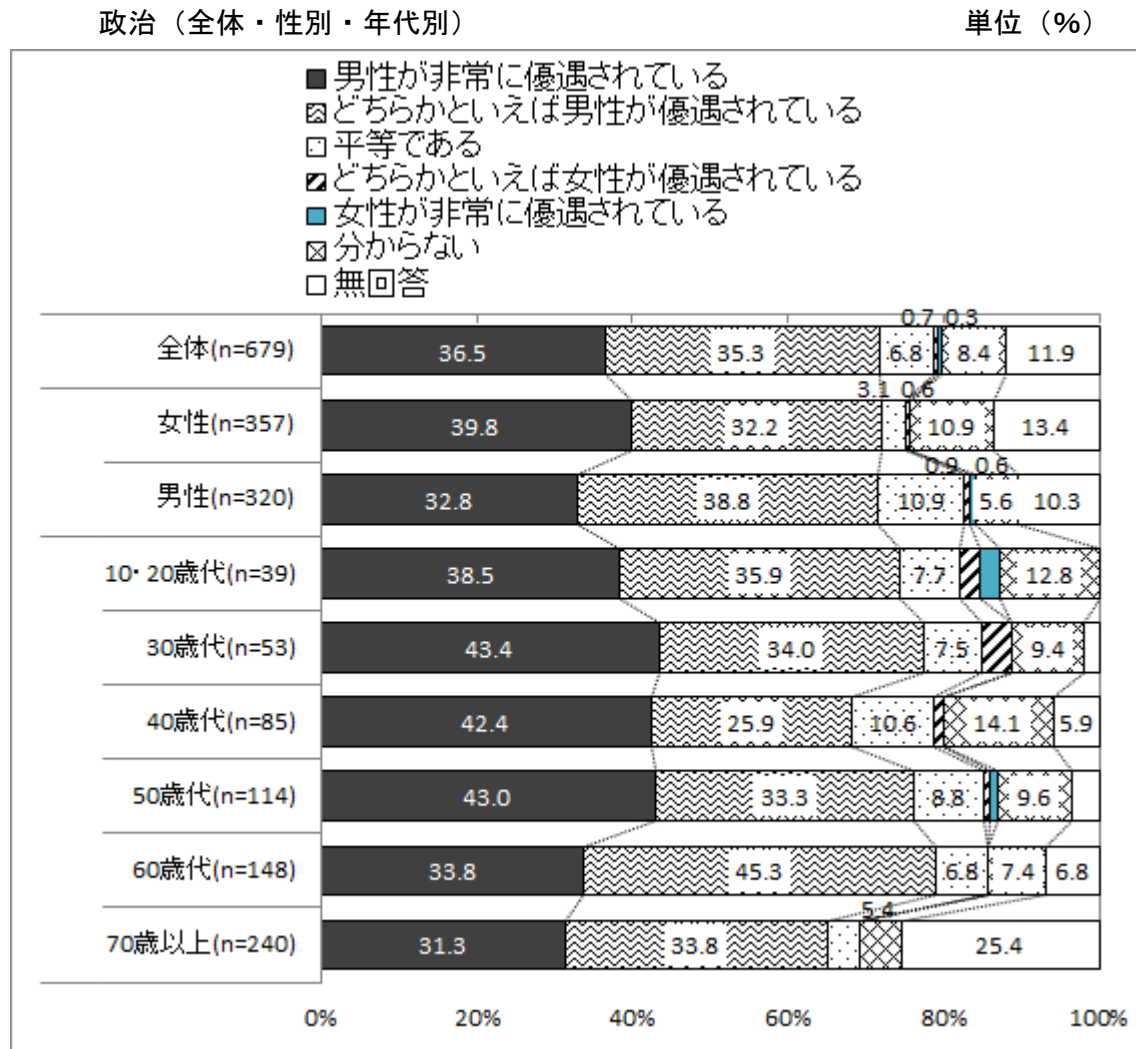


小樽市の過去の調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合が増加し、「平等である」については減少している。

北海道、国の調査と比較すると、「平等である」の割合は、小樽市の方が低くなっている。

⑤ 政治で

⇒ 「男性の方が優遇」が約72%、「平等」が約7%



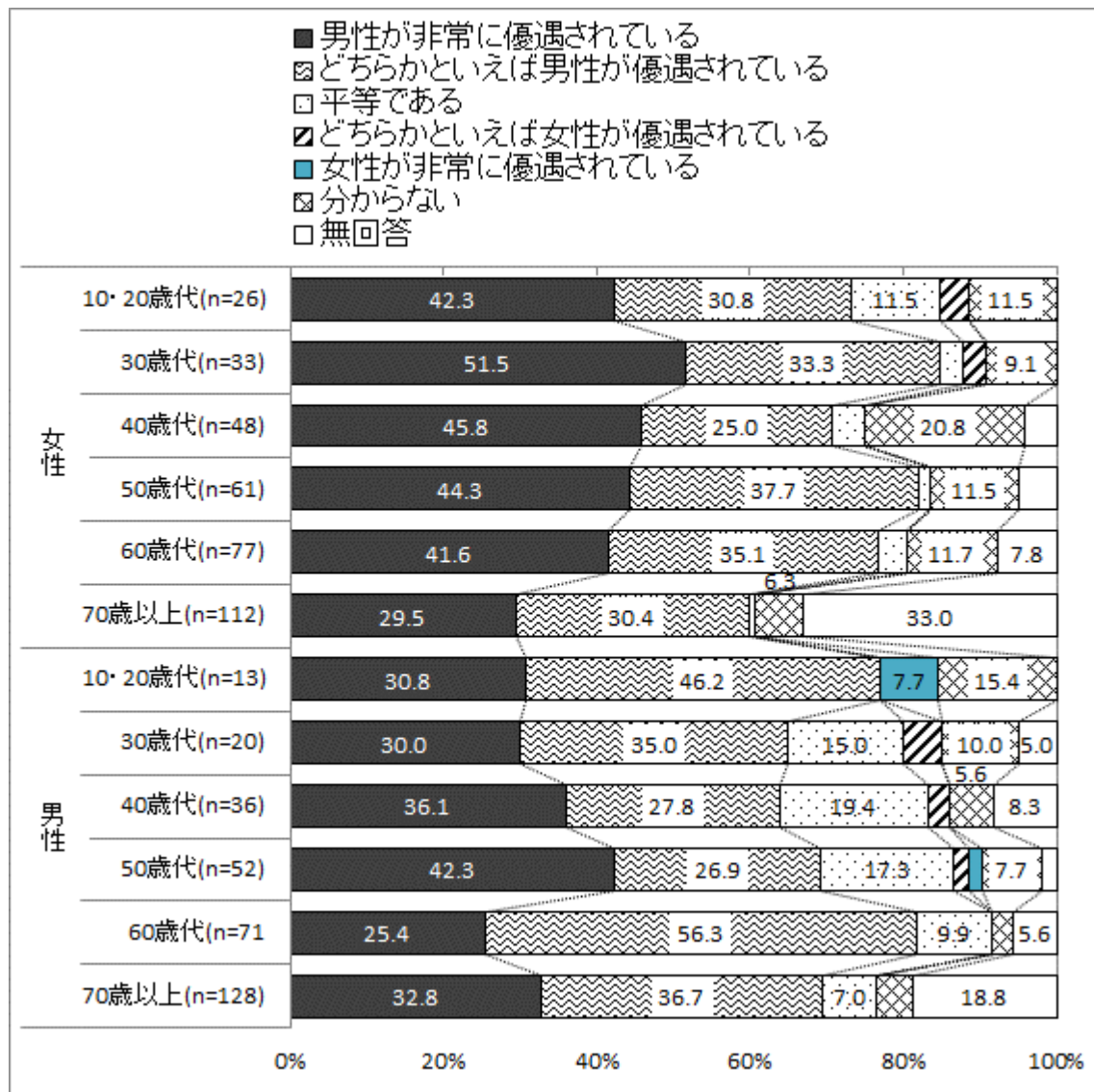
政治における平等感について聞いたところ、全体では、「男性の方が優遇」の割合が71.8%と最も高く、「平等である」が6.8%、「女性の方が優遇」が1.0%となっている。

性別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、女性・男性ともほぼ同程度となっている。

年代別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、全ての年代で高くなっており、「平等である」の割合は、40歳代で10.6%となった以外は、各年代で10%未満となっている。

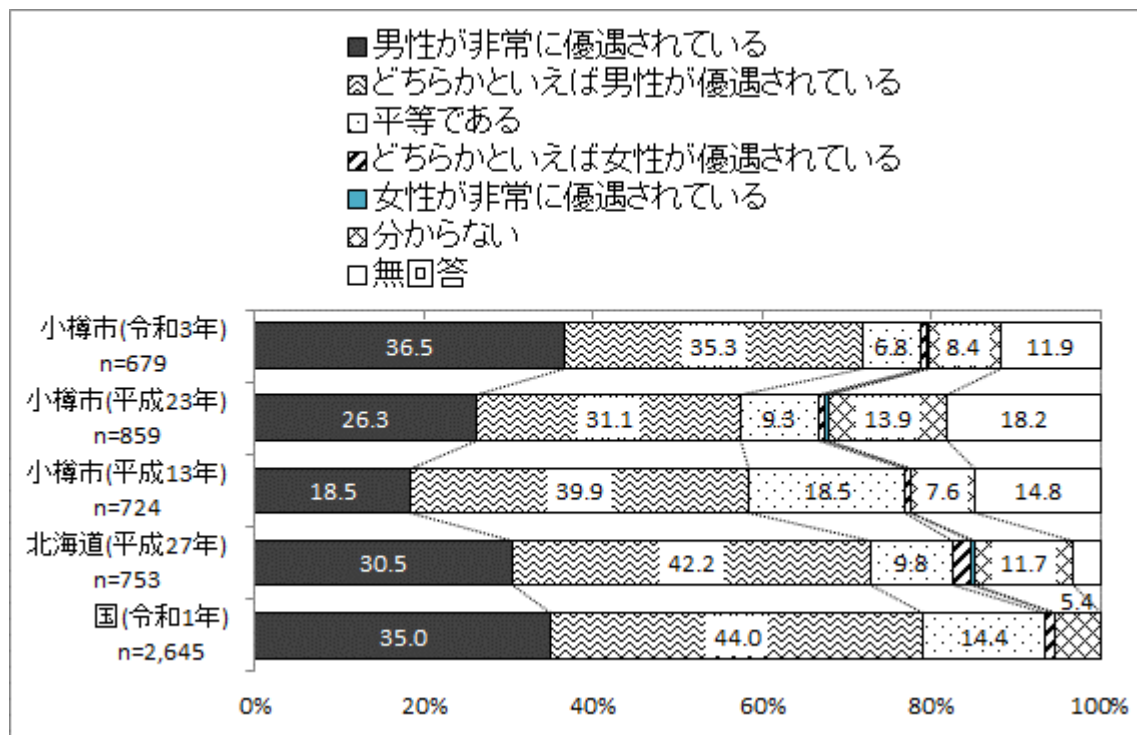
政治（性×年代別）

単位（％）



性×年代別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、女性・男性とも全ての年代で最も高くなっている。

「平等である」の割合は、女性の10・20歳代及び男性の30歳代～50歳代を除き、10%未満となっている。



小樽市の過去の調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合は増加傾向にあり、特に、「男性が非常に優遇されている」の割合が増加している。「平等である」の割合については、調査ごとに減少している。

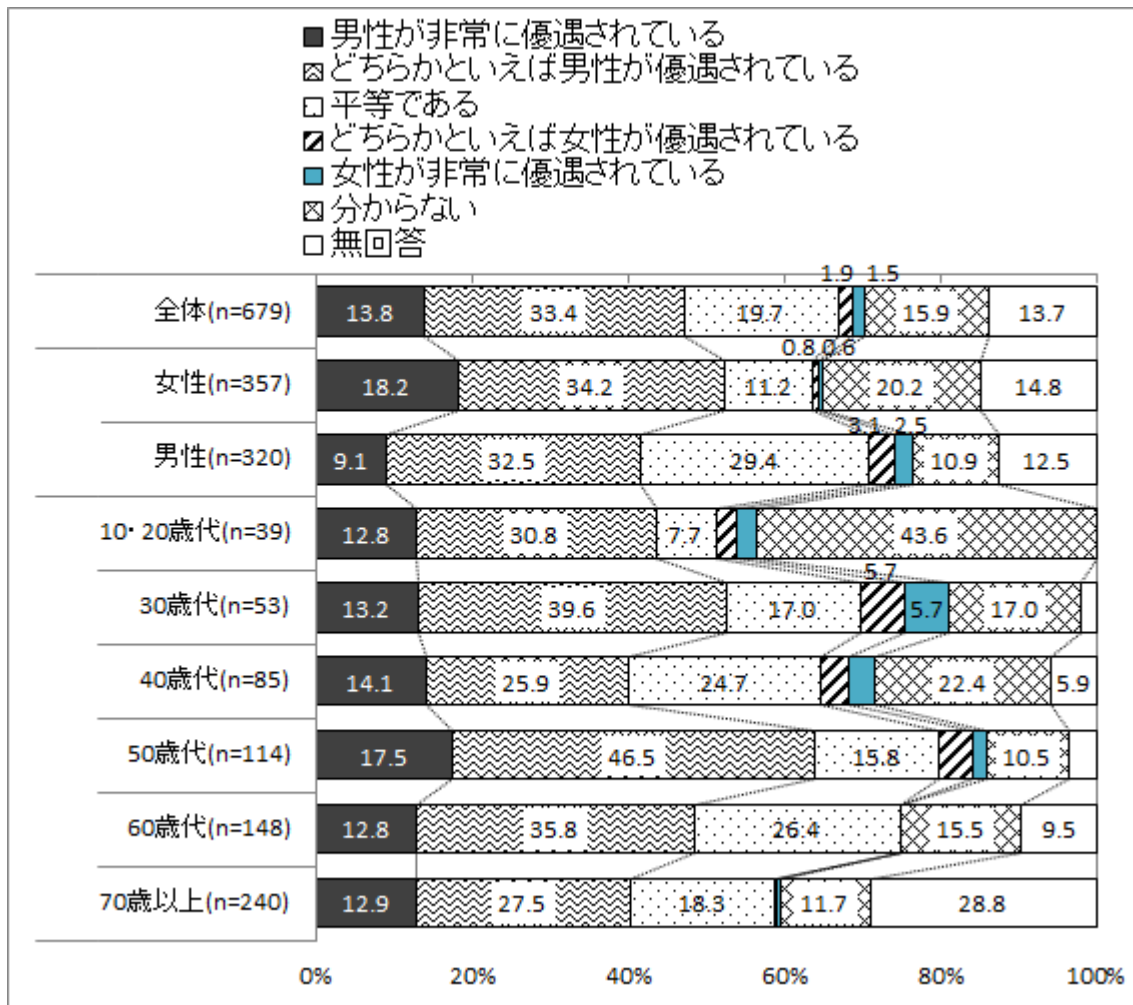
北海道、国の調査と比較すると、「男性が非常に優遇されている」の割合は小樽市の方が高くなっているが、「男性の方が優遇」と「平等である」の割合は、いずれも小樽市の方が低くなっている。

⑥ 法律や制度上で

⇒ 「男性の方が優遇」が約47%、「平等」が約20%

法律や制度上（全体・性別・年代別）

単位（%）



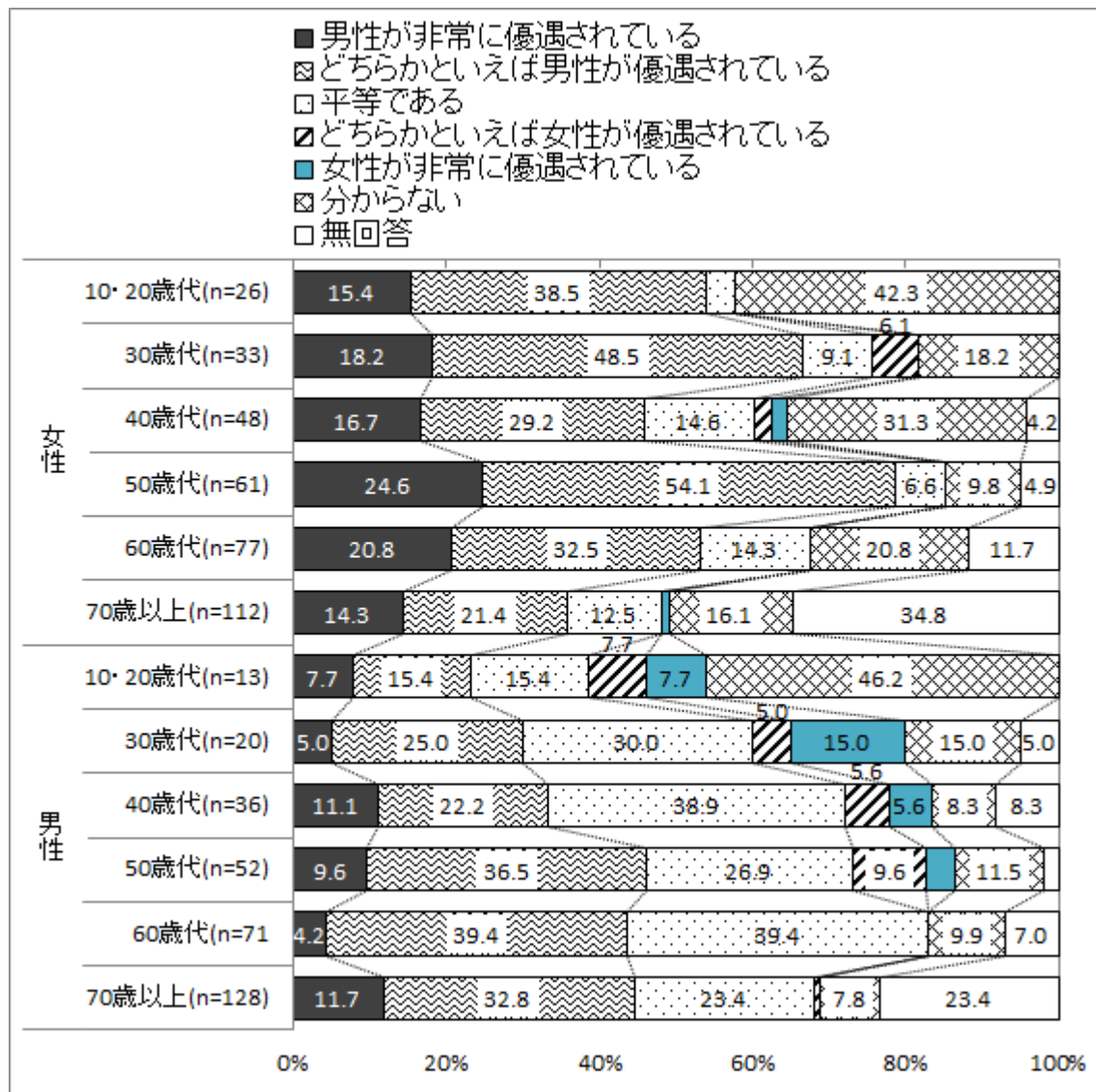
法律や制度上における平等感について聞いたところ、全体では、「男性の方が優遇」の割合が47.2%、「平等である」が19.7%、「女性の方が優遇」が3.4%となっている。

性別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は女性の方が高く、「平等である」は男性の方が高くなっている。

年代別で見ると、全ての年代で「男性の方が優遇」の割合が最も高くなっている。

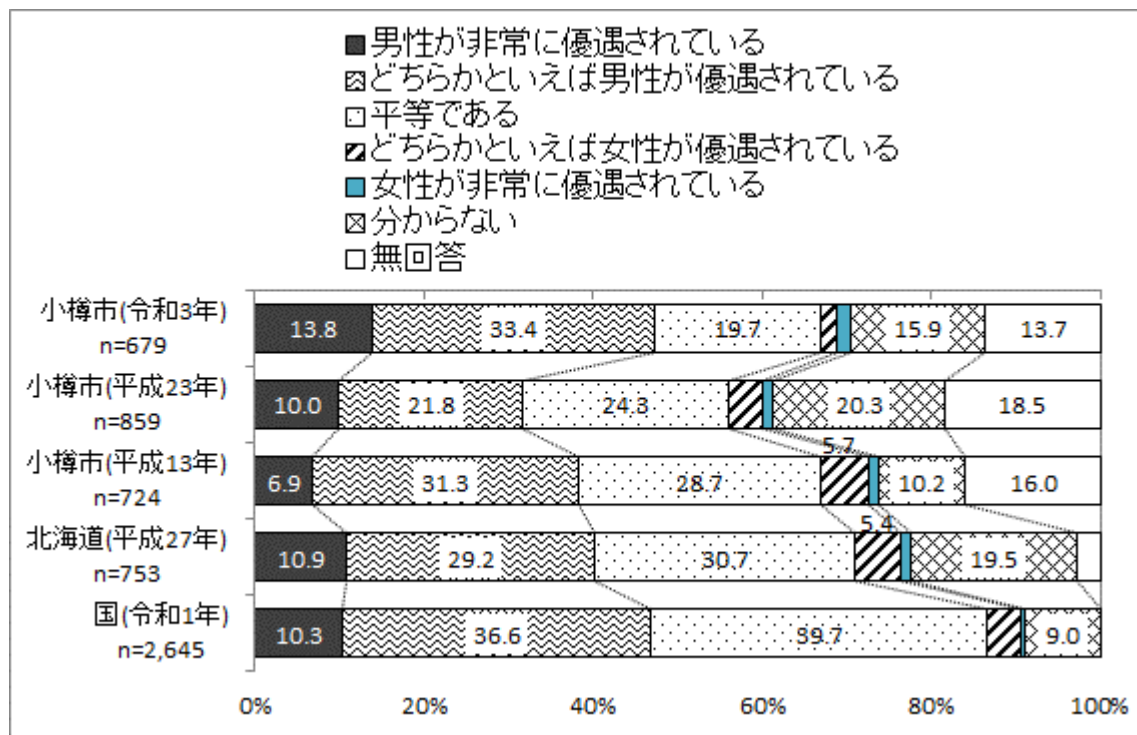
法律や制度上（性×年代別）

単位（％）



性×年代別で見ると、女性では、「男性の方が優遇」の割合が、全ての年代で最も高くなっている。「平等である」の割合は、全ての年代で10%未満となっている。

男性では、「平等である」の割合は40歳代と60歳代で高く、「男性の方が優遇」の割合は、10・20歳代、50歳代、70歳以上で高くなっている。



小樽市の過去の調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合が増加し、「平等である」については減少している。

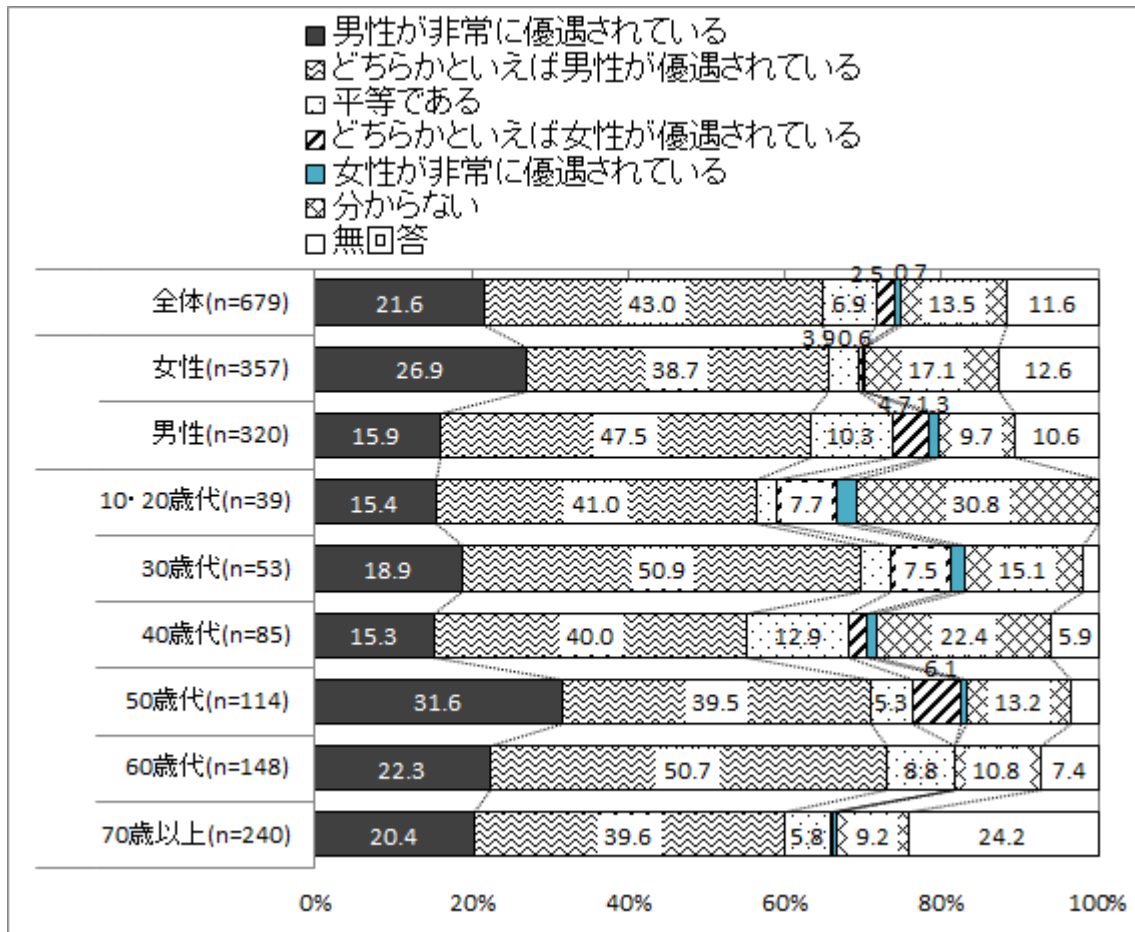
北海道、国の調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合が最も高い傾向は同様となっているが、「平等である」の割合は、小樽市の方が低くなっている。

⑦ 社会通念や慣習で

⇒「男性の方が優遇」が65%、「平等」が約7%

社会通念や慣習（全体・性別・年代別）

単位（%）



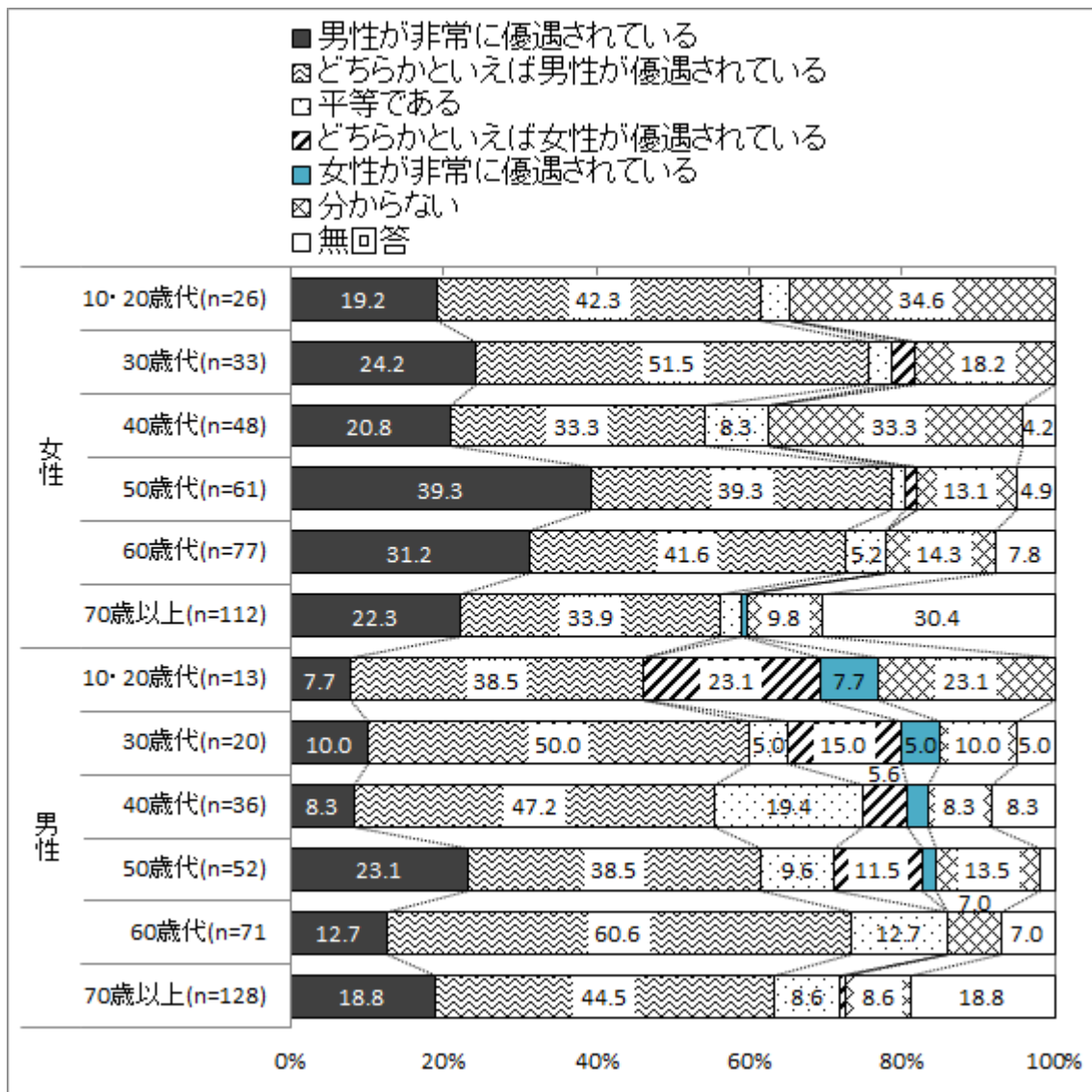
社会通念や慣習における平等感について聞いたところ、全体では、「男性の方が優遇」の割合が64.6%と最も高く、「平等である」が6.9%、「女性の方が優遇」が3.2%となっている。

性別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、女性・男性ともほぼ同程度となっているが、「平等である」は男性の方が高くなっている。

年代別で見ると、「男性の方が優遇」の割合は、全ての年代で高くなっており、50歳代以上では70%を超えている。「平等である」の割合は、40歳代で12.9%となっている以外は、全て10%未満となっている。

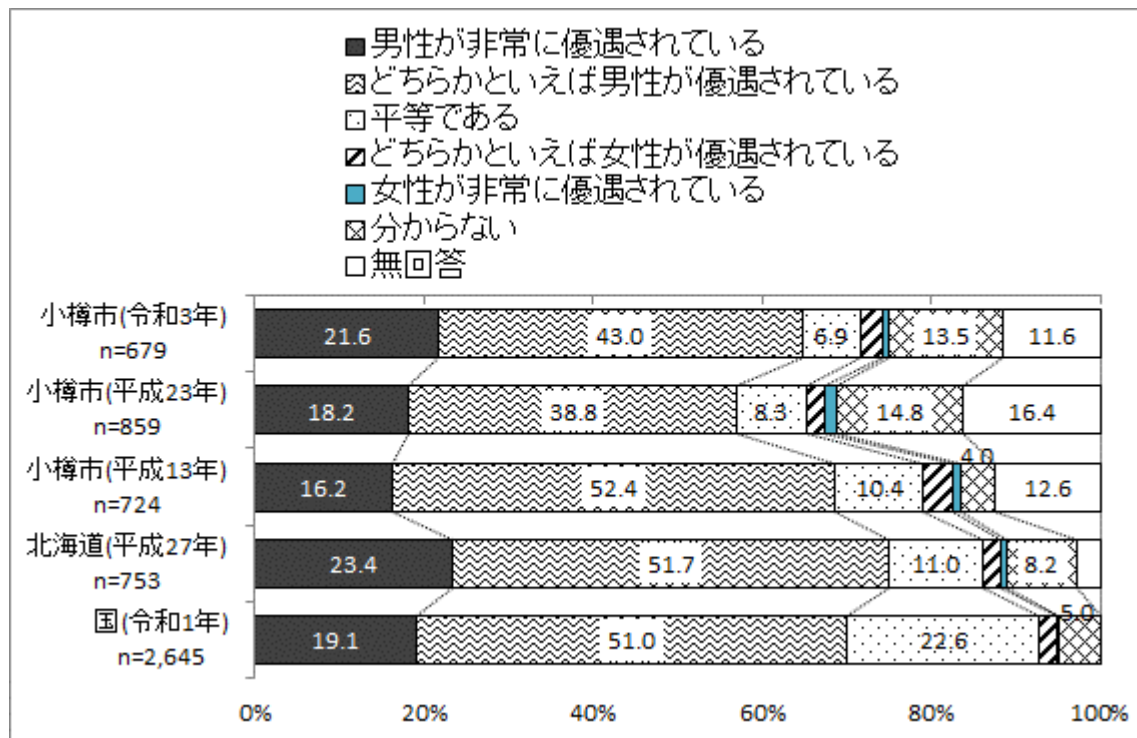
社会通念や慣習（性×年代別）

単位（％）



性×年代別で見ると、女性では、「男性の方が優遇」の割合が、30歳代、50歳代、60歳代で70%を超えるなど最も高くなっている。「平等である」の割合は、全ての年代で10%未満となっている。

男性では、「男性の方が優遇」の割合が70歳以上で70%を超えるほか、全ての年代で最も高くなっている。「平等である」の割合は、40歳代で19.4%、60歳代で12.7%となったが、他の年代では、10%未満となっている。



小樽市の平成13年調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合はやや減少しているが、23年調査と比較すると増加している。「平等である」の割合については、調査ごとに減少している。

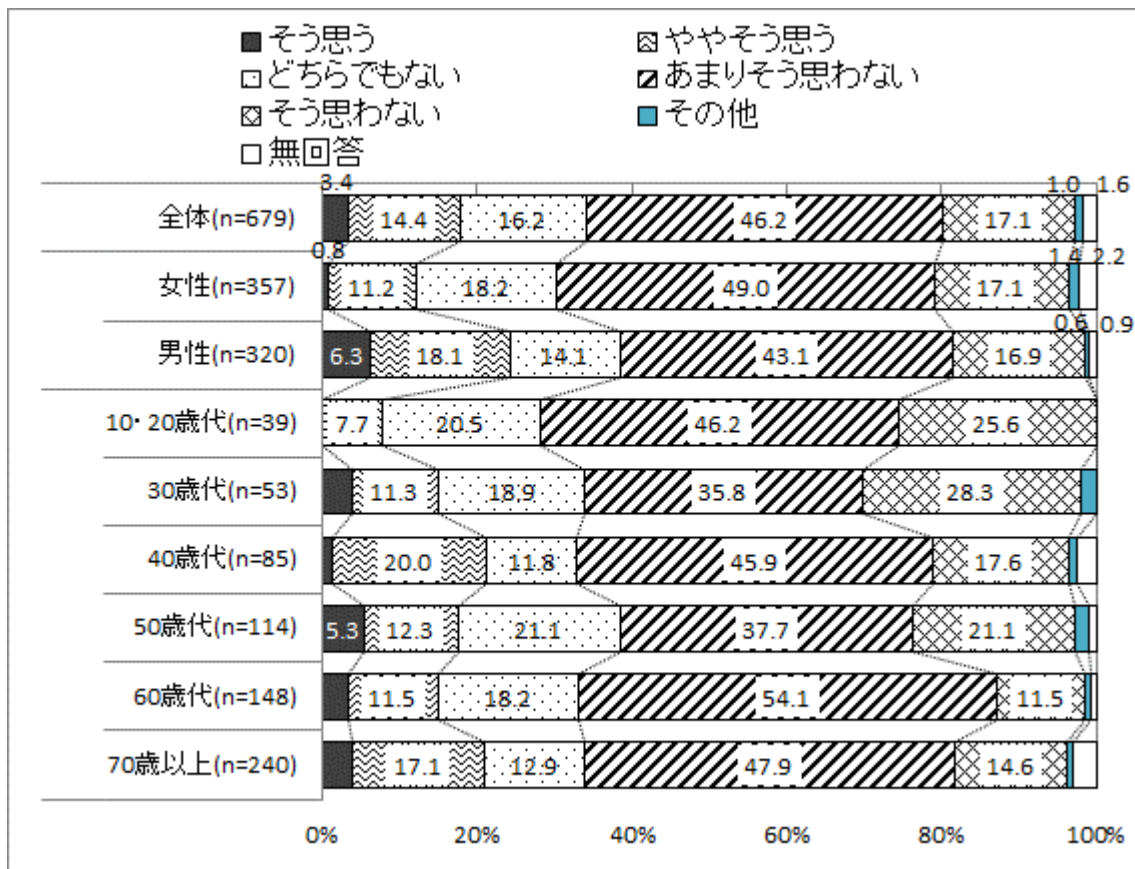
北海道、国の調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合と「平等である」の割合のいずれも小樽市の方が低くなっている。

問24 社会全体で見た男女平等感について（令和3年新規調査項目）

あなたは、社会全体として、男女平等となっていると思いますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

⇒ 社会全体として男女平等になっていないと思う方が約63%

社会全体で見た男女平等感について（全体・性別・年代別） 単位（%）



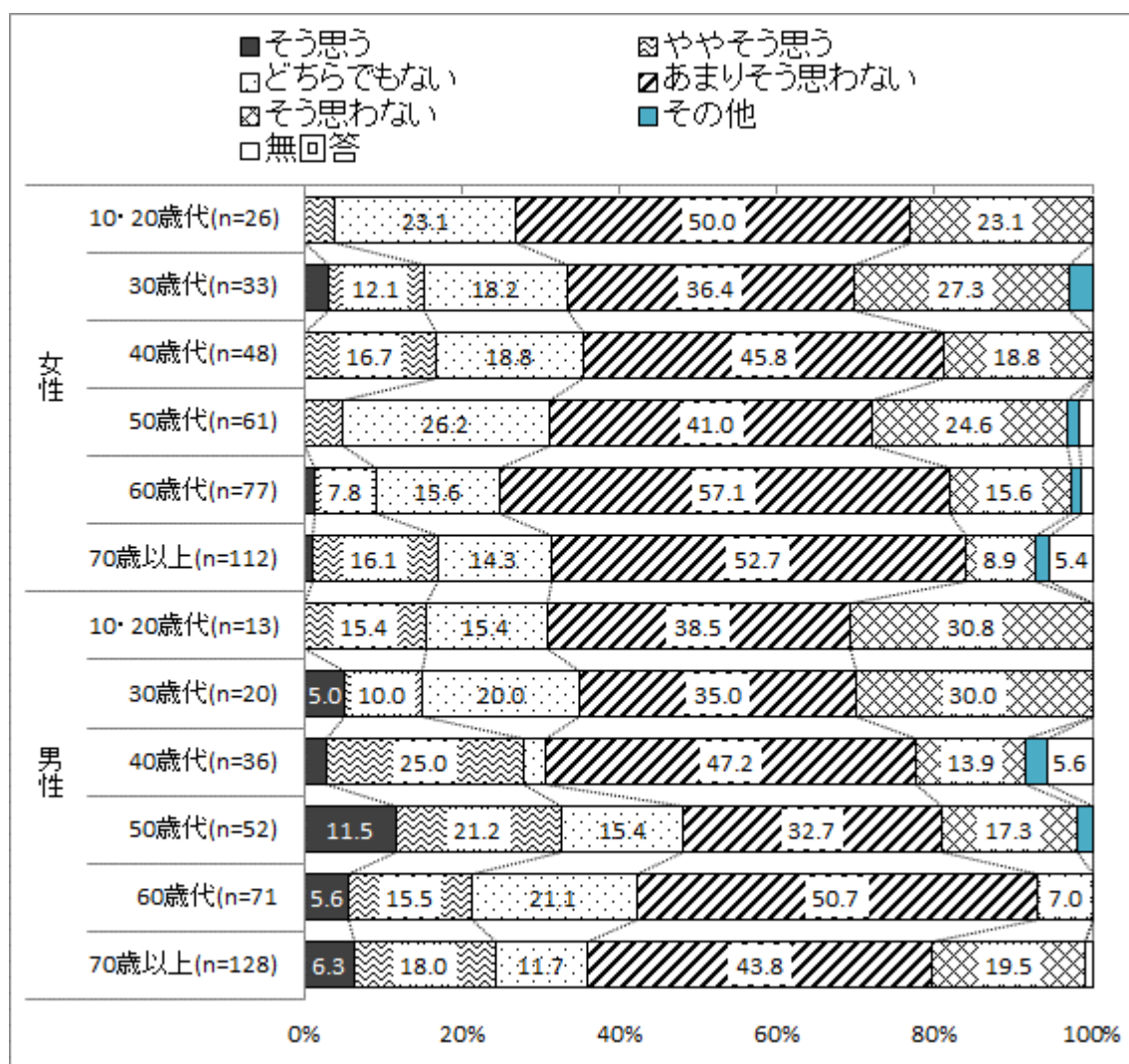
社会全体として男女平等となっているかについて聞いたところ、全体では、「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合が63.3%で、「そう思う」「ややそう思う」の17.8%を大きく上回っている。

性別で見ると、「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合は、女性が66.1%、男性が60.0%といずれも高くなっている。「そう思う」「ややそう思う」の割合は、男性が24.4%で女性の約2倍となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合が高くなっている。

社会全体で見た男女平等感について（性×年代別）

単位（％）



性×年代別で見ると、女性では、「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合が、全ての年代で60%以上と高くなっている。

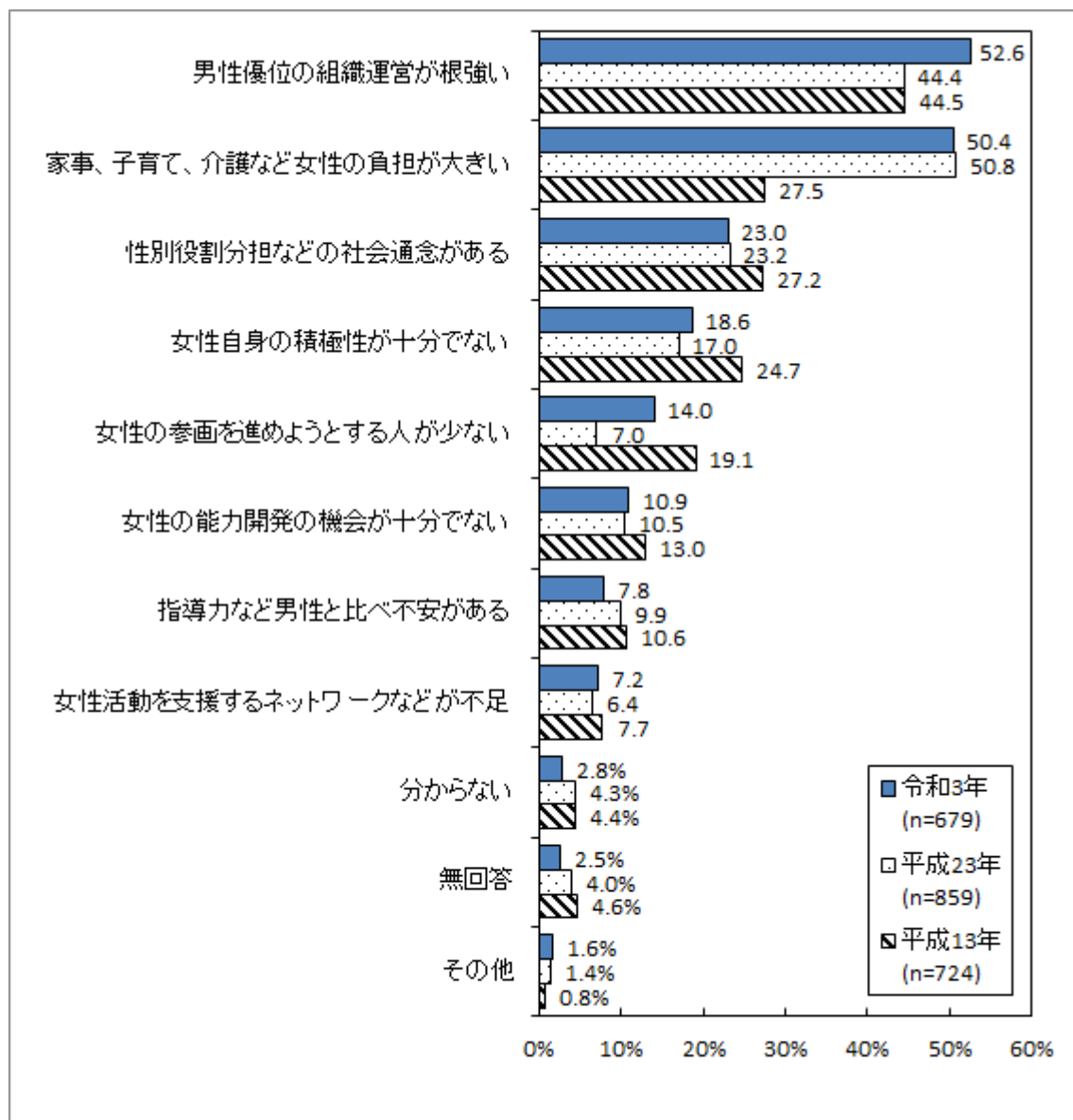
男性では、「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合が、10・20歳代～40歳代、70歳以上で60%を超えるなど、全ての年代で「そう思う」「ややそう思う」を上回っている。

問25 政策等決定の場で女性が少ない理由について（複数回答）

女性の社会進出は進んできていますが、政策、方針の決定や地域の指導的な立場に就く女性はまだ少ない状況です。それはどの理由からだと思いますか。あなたの考えに近い番号を2つまで選んで記入してください。

⇒ 「男性優位の組織運営が根強い」「家事など女性の負担が大きい」が上位。

政策等決定の場で女性が少ない理由について（過去の調査との比較） 単位（％）



（複数回答）

政策等決定の場で女性が少ない理由について聞いたところ、「男性優位の組織運営が根強い」の割合が52.6%、次いで「家事、子育て、介護など女性の負担が大きい」が50.4%、「性別役割分担などの社会通念がある」が23.0%と続いている。

過去の調査と比較すると、「男性優位の組織運営が根強い」の割合が増加している。

政策等決定の場で女性が少ない理由について（全体・性別・年代別） 単位（％）

		1位	2位	3位	4位	5位
全体		男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		52.6	50.4	23.0	18.6	14.0
女性		家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	男性優位の組織運営が根強い	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		56.6	50.4	21.0	16.2	14.0
男性		男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		55.0	43.1	25.3	21.3	14.1
年代別	10・20歳代	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	男性優位の組織運営が根強い	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
	30歳代	59.0	53.8	28.2	各10.3	
		男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性の参画を進めようとする人が少ない	女性自身の積極性が十分でない
	40歳代	60.4	58.5	26.4	15.1	13.2
		男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	女性自身の積極性が十分でない	性別役割分担などの社会通念がある	女性の能力開発の機会が十分でない
	50歳代	54.1	49.4	20.0	18.8	10.6
		男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
	60歳代	52.6	50.9	26.3	21.1	13.2
		男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
	70歳以上	56.8	45.9	23.6	20.3	16.9
		家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	男性優位の組織運営が根強い	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		50.0	47.5	20.8	18.3	14.6

（複数回答）

性別で見ると、女性では「家事、子育て、介護など女性の負担が大きい」の割合が最も高くなっている。男性では「男性優位の組織運営が根強い」が最も高くなっている。

年代別で見ると、30～60歳代では「男性優位の組織運営が根強い」の割合が最も高く、10・20歳代、70歳以上では、「家事、子育て、介護など女性の負担が大きい」の割合が最も高くなっている。

政策等決定の場で女性が少ない理由について（性×年代別）

単位（％）

		1位	2位	3位	4位	5位
女性	10・20歳代	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	男性優位の組織運営が根強い	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		69.2	50.0	26.9	各11.5	
	30歳代	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	男性優位の組織運営が根強い	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		69.7	60.6	18.2	各12.1	
	40歳代	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	男性優位の組織運営が根強い	女性自身の積極性が十分でない	性別役割分担などの社会通念がある	・女性の能力開発の機会が十分でない ・女性の参画を進めようとする人が少ない
		58.8	54.2	22.9	12.5	各10.4
	50歳代	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	男性優位の組織運営が根強い	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		65.6	62.3	21.3	14.8	11.5
	60歳代	男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		55.8	46.8	24.7	19.5	18.2
	70歳以上	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	男性優位の組織運営が根強い	性別役割分担などの社会通念がある	女性の参画を進めようとする人が少ない	女性自身の積極性が十分でない
		50.9	35.7	21.4	15.2	14.3
男性	10・20歳代	男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性活動を支援するネットワークなどが不足	その他
		61.5	38.5	30.8	各15.4	
	30歳代	男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性の参画を進めようとする人が少ない	・女性自身の積極性が十分でない ・女性の能力開発の機会が十分でない
		60.0	各40.0		20.0	各15.0
	40歳代	男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	・女性の能力開発の機会が十分でない ・指導力など男性と比べ不安がある
		52.8	36.1	27.8	16.7	各11.1
	50歳代	男性優位の組織運営が根強い	性別役割分担などの社会通念がある	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	女性自身の積極性が十分でない	女性の参画を進めようとする人が少ない
		42.3	各32.7		28.8	15.4
	60歳代	男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	性別役割分担などの社会通念がある	女性自身の積極性が十分でない	女性の能力開発の機会が十分でない
		57.7	45.1	22.5	21.1	19.7
	70歳以上	男性優位の組織運営が根強い	家事、子育て、介護など女性の負担が大きい	女性自身の積極性が十分でない	性別役割分担などの社会通念がある	女性の参画を進めようとする人が少ない
		57.8	49.2	21.9	20.3	14.1

（複数回答）

性×年代別で見ると、女性では、「家事、子育て、介護など女性の負担が大きい」の割合が、60歳代を除く全ての年代で最も高くなっている。

男性では、「男性優位の組織運営が根強い」が全ての年代で最も高くなっている。

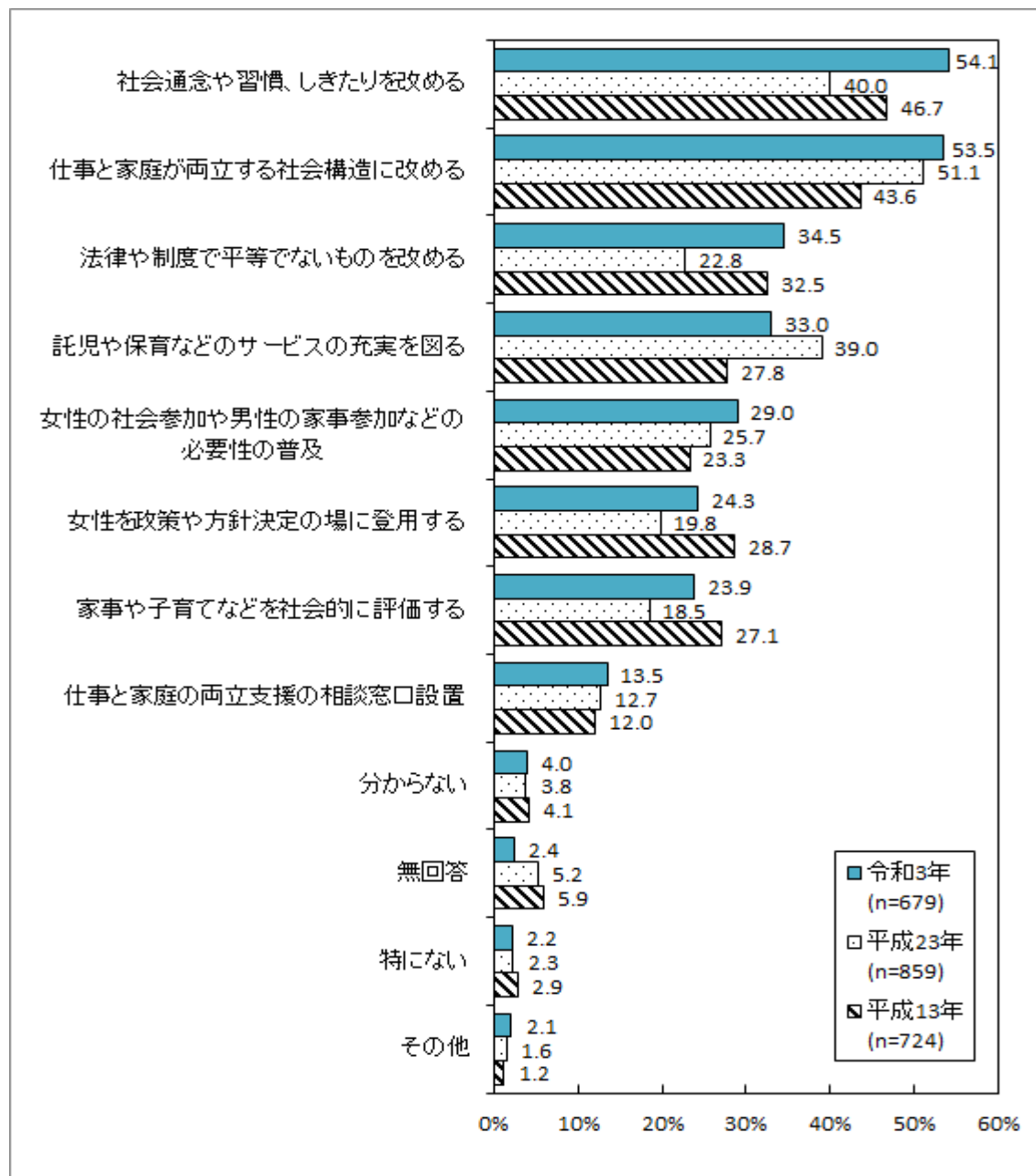
問26 男女共同参画社会の実現のため社会をどう変えるか（複数回答）

男性と女性が、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に、ともに参画する社会を実現するためには、社会全体をどのように変える必要があると思いますか。当てはまる番号を3つまで選んで記入してください。

⇒ 「社会通念や習慣、しきたりを改める」「仕事と家庭が両立する社会構造に改める」が上位。

男女共同参画社会の実現のため社会をどう変えるか（過去の調査との比較）

単位（％）



（複数回答）

男女共同参画社会の実現のため社会をどう変えるかについて聞いたところ、「社会通念や習

慣、しきたりを改める」の割合が54.1%、次いで「仕事と家庭が両立する社会構造に改める」が53.5%、「法律や制度で平等でないものを改める」が34.5%と続いている。

過去の調査と比較すると、順位の変更はあるものの、各回とも「社会通念や習慣、しきたりを改める」「仕事と家庭が両立する社会構造に改める」が上位となっている。

男女共同参画社会の実現のため社会をどう変えるか（全体・性別・年代別）

単位（％）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	社会通念や習慣、しきたりを改める 54.1	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 53.5	法律や制度で平等でないものを改める 34.5	託児や保育などのサービスの充実を図る 33.0	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及 29.0
女性	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 56.6	社会通念や習慣、しきたりを改める 51.5	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及 33.3	託児や保育などのサービスの充実を図る 32.2	法律や制度で平等でないものを改める 29.7
男性	社会通念や習慣、しきたりを改める 56.9	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 50.0	法律や制度で平等でないものを改める 39.7	託児や保育などのサービスの充実を図る 33.8	女性を政策や方針決定の場に登用する 27.8
年代別	10・20歳代	社会通念や習慣、しきたりを改める 59.0	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 56.4	託児や保育などのサービスの充実を図る 33.3	法律や制度で平等でないものを改める 各28.2
	30歳代	社会通念や習慣、しきたりを改める 各54.7	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 各54.7	法律や制度で平等でないものを改める 各37.7	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及 各37.7
	40歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 52.9	社会通念や習慣、しきたりを改める 43.5	法律や制度で平等でないものを改める 36.5	家事や子育てなどを社会的に評価する 30.6
	50歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 55.3	社会通念や習慣、しきたりを改める 52.6	法律や制度で平等でないものを改める 37.7	託児や保育などのサービスの充実を図る 27.2
	60歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 63.5	社会通念や習慣、しきたりを改める 60.8	託児や保育などのサービスの充実を図る 41.9	法律や制度で平等でないものを改める 各29.7
	70歳以上	社会通念や習慣、しきたりを改める 53.3	仕事と家庭が両立する社会構造に改める 45.8	法律や制度で平等でないものを改める 35.4	託児や保育などのサービスの充実を図る 32.5
					女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及 30.0

（複数回答）

性別で見ると、女性は「仕事と家庭が両立する社会構造に改める」の割合が最も高く、男性は「社会通念や習慣しきたりを改める」が最も高くなっている。

年代別で見ると、男女共にすべての年代で「社会通念や習慣しきたりを改める」、仕事と家庭が両立する社会構造に改める」が上位を占めている。

男女共同参画社会の実現のため社会をどう変えるか（性×年代別）単位（％）

		1位	2位	3位	4位	5位
女性	10・20歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	社会通念や習慣、しきたりを改める	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及	託児や保育などのサービスの充実を図る	女性を政策や方針決定の場に登用する
		61.5	46.2	各34.6		30.8
	30歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	社会通念や習慣、しきたりを改める	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及	家事や子育てなどを社会的に評価する	託児や保育などのサービスの充実を図る
		57.6	45.5	各39.4		
	40歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	社会通念や習慣、しきたりを改める	法律や制度で平等でないものを改める	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及	託児や保育などのサービスの充実を図る
		58.3	37.5	35.4	33.3	29.2
	50歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	社会通念や習慣、しきたりを改める	法律や制度で平等でないものを改める	家事や子育てなどを社会的に評価する	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及
		65.6	59.0	32.8	31.1	29.5
	60歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	社会通念や習慣、しきたりを改める	託児や保育などのサービスの充実を図る	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及	法律や制度で平等でないものを改める
		63.6	59.7	41.6	35.1	28.4
	70歳以上	社会通念や習慣、しきたりを改める	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	託児や保育などのサービスの充実を図る	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及	法律や制度で平等でないものを改める
		50.9	44.6	33.0	32.1	29.5
男性	10・20歳代	社会通念や習慣、しきたりを改める	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	家事や子育てなどを社会的に評価する	法律や制度で平等でないものを改める	託児や保育などのサービスの充実を図る
		84.6	46.2	38.5	各30.8	
	30歳代	社会通念や習慣、しきたりを改める	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	法律や制度で平等でないものを改める	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及	家事や子育てなどを社会的に評価する
		70.0	50.0	45.0	各35.0	
	40歳代	社会通念や習慣、しきたりを改める	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	法律や制度で平等でないものを改める	女性を政策や方針決定の場に登用する	家事や子育てなどを社会的に評価する
		50.0	47.2	38.9	各33.3	
	50歳代	社会通念や習慣、しきたりを改める	法律や制度で平等でないものを改める	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	託児や保育などのサービスの充実を図る	女性を政策や方針決定の場に登用する
		46.2	各42.3		38.5	28.8
	60歳代	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	社会通念や習慣、しきたりを改める	託児や保育などのサービスの充実を図る	法律や制度で平等でないものを改める	女性の社会参加や男性の家事参加などの必要性の普及
		63.4	62.0	42.3	36.6	23.9
	70歳以上	社会通念や習慣、しきたりを改める	仕事と家庭が両立する社会構造に改める	法律や制度で平等でないものを改める	女性を政策や方針決定の場に登用する	託児や保育などのサービスの充実を図る
		55.5	46.9	40.6	32.8	32.0

（複数回答）

性×年代別で見ると、女性では、「仕事と家庭が両立する社会構造に改める」の割合が、70歳以上を除く全ての年代で最も高くなっている。

男性では、「社会通念や習慣、しきたりを改める」の割合が、60歳代を除く全ての年代で最も高くなっている。

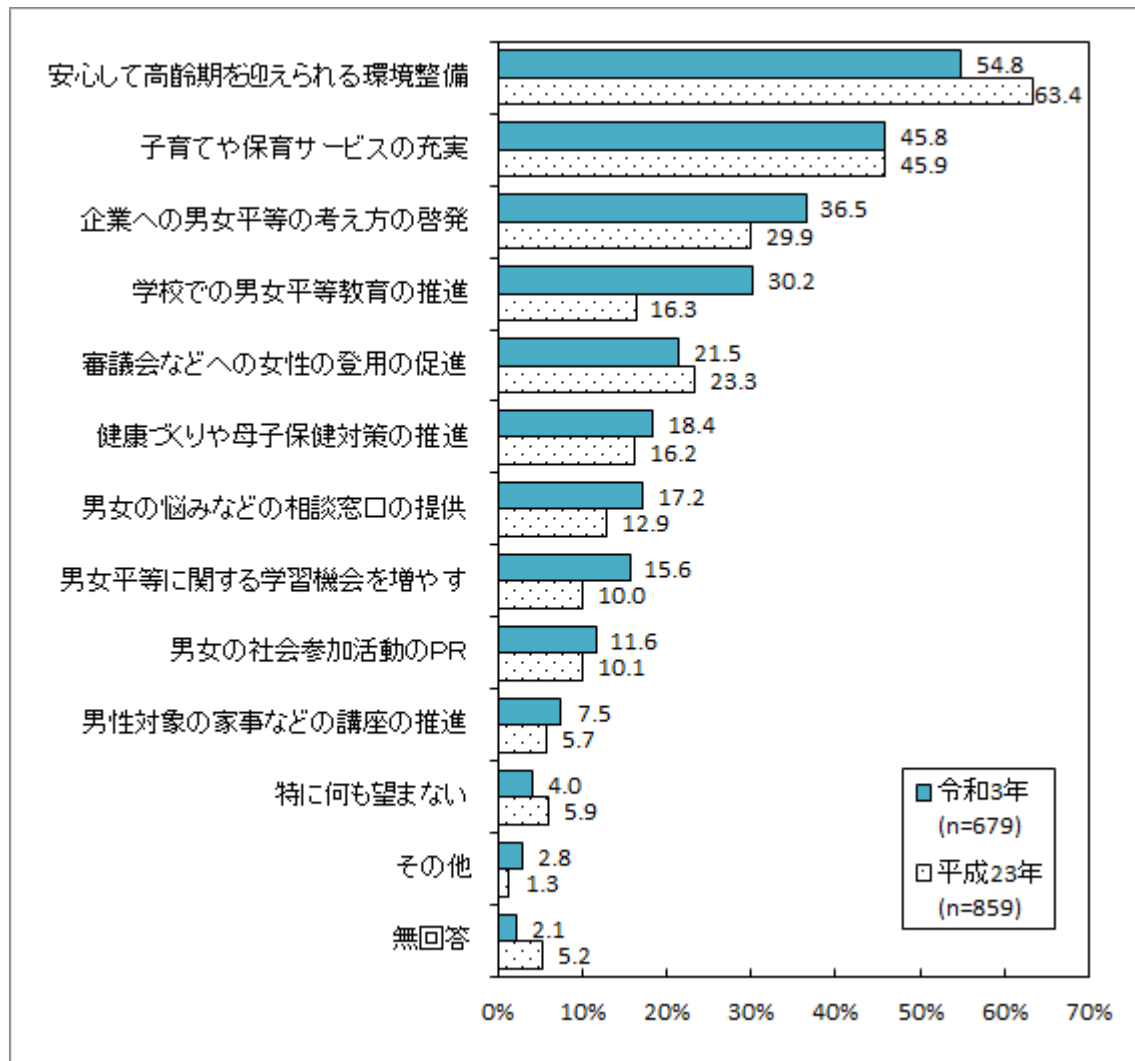
問27 男女共同参画を進めるために市の施策に望むこと（複数回答）

あなたは小樽市が男女平等参画を進めるために、市の施策にどのようなことを望みますか。当てはまる番号を3つまで選んでください。

⇒ 「安心して高齢期を迎えられる環境整備」「子育てや保育サービスの充実」が上位。

男女共同参画を進めるために市の施策に望むこと（全体）

単位（％）



（複数回答）

男女共同参画を進めるために市の施策に望むことについて聞いたところ、「安心して高齢期を迎えられる環境整備」の割合が54.8%、次いで「子育てや保育サービスの充実」が45.8%、「企業への男女平等の考え方の啓発」が36.5%と続いている。

前回調査と比較すると、「安心して高齢期を迎えられる環境整備」の割合が減少し、「企業への男女平等の考え方の啓発」「学校での男女平等教育の推進」が増加している。

男女共同参画を進めるために市の施策に望むこと（全体・性別・年代別）単位（％）

		1位	2位	3位	4位	5位
全体		安心して高齢期を迎えられる環境整備	子育てや保育サービスの充実	企業への男女平等の考え方の啓発	学校での男女平等教育の推進	審議会などへの女性の登用の促進
		54.8	45.8	36.5	30.2	21.5
女性		安心して高齢期を迎えられる環境整備	子育てや保育サービスの充実	企業への男女平等の考え方の啓発	学校での男女平等教育の推進	男女の悩みなどの相談窓口の提供
		56.9	46.2	37.0	24.1	21.3
男性		安心して高齢期を迎えられる環境整備	子育てや保育サービスの充実	学校での男女平等教育の推進	企業への男女平等の考え方の啓発	審議会などへの女性の登用の促進
		52.2	45.3	36.9	36.3	23.4
年代別	10・20歳代	子育てや保育サービスの充実	安心して高齢期を迎えられる環境整備	企業への男女平等の考え方の啓発	学校での男女平等教育の推進	健康づくりや母子保健対策の推進
		71.8	46.2	35.9	各28.2	
	30歳代	子育てや保育サービスの充実	安心して高齢期を迎えられる環境整備	企業への男女平等の考え方の啓発	学校での男女平等教育の推進	男女の悩みなどの相談窓口の提供
		52.8	41.5	35.8	28.3	22.6
	40歳代	安心して高齢期を迎えられる環境整備	企業への男女平等の考え方の啓発	子育てや保育サービスの充実	学校での男女平等教育の推進	審議会などへの女性の登用の促進
		50.6	44.7	41.2	22.4	16.5
	50歳代	安心して高齢期を迎えられる環境整備	子育てや保育サービスの充実	企業への男女平等の考え方の啓発	学校での男女平等教育の推進	審議会などへの女性の登用の促進
		50.9	43.9	37.7	28.9	23.7
	60歳代	安心して高齢期を迎えられる環境整備	子育てや保育サービスの充実	企業への男女平等の考え方の啓発	学校での男女平等教育の推進	審議会などへの女性の登用の促進
		58.8	54.1	35.1	28.4	25.7
	70歳以上	安心して高齢期を迎えられる環境整備	子育てや保育サービスの充実	学校での男女平等教育の推進	企業への男女平等の考え方の啓発	審議会などへの女性の登用の促進
		60.0	37.5	35.4	34.2	24.6

（複数回答）

性別で見ると、「安心して高齢期を迎えられる環境整備」の割合が、男女共に最も高くなっている。

年代別で見ると、「安心して高齢期を迎えられる環境整備」の割合が40歳代以上の全ての年代で最も高く、「子育てや保育サービスの充実」は10・20歳代と30歳代で最も高くなっている。

男女共同参画を進めるために市の施策に望むこと（性×年代別） 単位（％）

		1位	2位	3位	4位	5位
女性	10・20歳代	子育てや保育サービスの充実 80.8	安心して高齢期を迎えられる環境整備 57.7	企業への男女平等の考え方の啓発 30.8	学校での男女平等教育の推進 各26.9	健康づくりや母子保健対策の推進
	30歳代	子育てや保育サービスの充実 54.5	安心して高齢期を迎えられる環境整備 48.5	企業への男女平等の考え方の啓発 36.4	男性対象の家事などの講座の推進 24.2	学校での男女平等教育の推進 21.2
	40歳代	安心して高齢期を迎えられる環境整備 52.1	企業への男女平等の考え方の啓発 45.8	子育てや保育サービスの充実 41.7	学校での男女平等教育の推進 18.8	審議会などへの女性の登用の促進 16.7
	50歳代	安心して高齢期を迎えられる環境整備 45.9	企業への男女平等の考え方の啓発 44.3	子育てや保育サービスの充実 36.1	学校での男女平等教育の推進 26.2	・審議会などへの女性の登用の促進 ・男女の悩みなどの相談窓口の提供 各21.3
	60歳代	安心して高齢期を迎えられる環境整備 61.0	子育てや保育サービスの充実 50.6	企業への男女平等の考え方の啓発 36.4	学校での男女平等教育の推進 27.3	審議会などへの女性の登用の促進 24.7
	70歳以上	安心して高齢期を迎えられる環境整備 64.3	子育てや保育サービスの充実 40.2	企業への男女平等の考え方の啓発 31.3	健康づくりや母子保健対策の推進 各26.8	男女の悩みなどの相談窓口の提供
男性	10・20歳代	子育てや保育サービスの充実 53.8	企業への男女平等の考え方の啓発 46.2	学校での男女平等教育の推進 各30.8	健康づくりや母子保健対策の推進 各23.1	・男女平等に関する学習機会を増やす ・安心して高齢期を迎えられる環境整備 ・その他
	30歳代	子育てや保育サービスの充実 50.0	学校での男女平等教育の推進 40.0	企業への男女平等の考え方の啓発 35.0	安心して高齢期を迎えられる環境整備 各30.0	男女の悩みなどの相談窓口の提供
	40歳代	安心して高齢期を迎えられる環境整備 47.2	企業への男女平等の考え方の啓発 44.4	子育てや保育サービスの充実 41.7	学校での男女平等教育の推進 27.8	健康づくりや母子保健対策の推進 22.2
	50歳代	安心して高齢期を迎えられる環境整備 55.8	子育てや保育サービスの充実 51.9	企業への男女平等の考え方の啓発 各30.3	学校での男女平等教育の推進 26.9	審議会などへの女性の登用の促進
	60歳代	子育てや保育サービスの充実 57.7	安心して高齢期を迎えられる環境整備 56.3	企業への男女平等の考え方の啓発 33.8	学校での男女平等教育の推進 29.6	男女平等に関する学習機会を増やす 28.2
	70歳以上	安心して高齢期を迎えられる環境整備 56.3	学校での男女平等教育の推進 46.1	企業への男女平等の考え方の啓発 36.7	子育てや保育サービスの充実 35.2	審議会などへの女性の登用の促進 28.1

（複数回答）

性×年代別で見ると、女性では、「子育てや保育サービスの充実」の割合が10・20歳代と30歳代で、「安心して高齢期を迎えられる環境整備」が40歳代以上で最も高くなっている。

男性では、「子育てや保育サービスの充実」の割合が10・20歳代と30歳代、60歳代で最も高く、「安心して高齢期を迎えられる環境整備」は40歳代と50歳代、70歳代で最も高くなっている。